



ワタミ環境レポート2021

グループの企業活動をとおして SDGs を達成し、持続可能な社会構築を目指すワタミグループの活動報告書



地球上で一番たくさんの "ありがとう"を集める グループになろう

ワタミ株式会社

会社概要(2021年3月期)

社 名:ワタミ株式会社

本社所在地:東京都大田区羽田一丁目1番3号(〒144-0043)

創業:昭和59年4月 設 立:昭和61年5月

売 上 高:60,852百万円(連結)

資 本 金: 4,910百万円

社 員 数:1,902人(グループ計)

事業内容:

国内外食事業、海外外食事業、宅食事業、農業、環境事業

主なグループ会社:

有限会社ワタミファーム、ワタミエナジー株式会社、

ワタミオーガニックランド株式会社、

和民國際有限公司、WATAMI USA GUAM、

有限会社当麻グリーンライフ

TEL: 03-5737-2814 / FAX: 03-5737-2719 ワタミふれあいホームページ: http://www.watami.co.jp

ワタミ環境レポート2021

編集方針

本レポートは、ワタミグループが取り組んでいる環境・社会 貢献活動について報告しています。ワタミグループの環境・ 社会貢献に関連する取り組みを開示することにより、多くの ステークホルダーの皆さまと情報を共有し、SDGsを達成し た持続可能な社会構築を目指しています。

報告の対象範囲ほか

対象組織

ワタミグループの海外事業を除く国内全社・全部門 対象期間・

2020年4月1日~2021年3月31日 ※一部、最新の情報を記載しています

☆一郎、取割のⅡ ※

「
・

2021年10月









この報告書の印刷工程で 使用した電力量(200kWh) は、自然エネルギーでまかな われています。





陸前高田 watami

🔁 オーガニックランド

2011年に起きた東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県陸前高田市。10年目の春、奇跡の一本松を望む 今泉地区に、ワタミの思いを伝える「陸前高田ワタミオーガニックランド」が開業しました。 未来の子どもたちに贈る「ワタミSDGsの形」です。

陸前高田ワタミオーガニックランド設立の思い

2021年4月29日、20年かけて作り上げていく、日本で最初のオーガニック・命をテーマにした環境配慮型農業テーマパーク「陸前高田ワタミオーガ ニックランド」がオープンしました。「子どもは、未来の地球に対してワクワクし、大人は、未来の地球に対して、責任を感じる場所でありたい。」設立趣意 書をお披露目しました。

逸

夫

オーガニックランド

立の

思

LI

オーガニックランド

と陸前高田が見渡せ

る小さな展望台です

揚水量車計画準備中

物見棟 捋来予定

オーガニックランドは津波で被害を受けた広大な土 地の「土づくり」からはじめ、再生可能エネルギーを 利用した循環型6次産業「ワタミモデル」を具現化 する一大事業です。そこには命の循環や、持続可能 な地球の在り方への提言があります。



渡邉会長挨拶

陸前高田市とのつながり

2011年3月11日東日本大震災発生直後から、ワタミは岩手県陸前高 田市への災害支援を開始しました。そして戸羽市長から会長の渡邉へ 「陸前高田市参与(震災復興支援)」の要請があり、就任しました。

2011年6月6月6月~11月	会長の渡邉が陸前高田市参与(震災復興支援)に就任 ボランティアツアー(ガレキ撤去・農地の除草など) に延べ2,531名参加
2012年3月	ワタミの宅食総合受付センター(コールセンター) 竹駒地区にオープン 東日本大震災発生以降、同市への本格的な 企業立地は初めて
2013年3月	ボランティアツアー(農作業支援)
2018年3月	陸前高田市で「みんなの夢 AWARD」開催
2019年8月	陸前高田ワタミオーガニックランド建設発表
2021年4月	陸前高田ワタミオーガニックランド オープン



オーガニックランドと一緒に陸前高田市を 盛り上げていきたいと思います。

コールセンター開設から10年目を迎え、現在は50数名 のメンバーと全国のお電話を受付けています。陸前高田 市も色々な施設やスポットがオープンしています。

20年をかけて完成を目指します



音楽堂エリア(2022年5月オープン予定)

新国立競技場などを設計した隈研吾氏が、オーガニックランドのコンセプトに共感していただく場として、日本最大級の自然共生型野外音楽堂を設計中です。

圃場エリア(2023年度以降着工)

6次産業の加工エリア、農業研修や修学旅行等での様々な農業・加工体験エリア、宿泊 施設エリアなどの活用を検討しています。また、有機無農薬の野菜などの栽培を行い、 お客様が散策できるような活用も計画しています。

モデルエリア(2021年4月29日NEWオープン)

インフォメーション等では、軽食(ハンバーガー)やドリンクなどを提供。温室・BBQ等 では、葉物野菜の栽培とその収穫体験ができる3棟の木造ハウスと、地元岩手県産の お肉(牛・豚・鶏)を使用したBBQが楽しめます。

ハウスエリア(2022年3月オープン予定)

農業用ハウスでの水耕栽培、最新の植物工場の導入を計画中。空調の整ったハウス 内で障がい者の方も安心して働ける農福連携事業や、場内全体のエネルギー生産、資 源循環の為の設備が配置されたエネルギーセンターの設置を計画中です。

津波ですべてが流された大地で、2021年4月陸前高田ワタミオーガニックランドがスタートしました。3年前の現地視察の 際、正直「ここでテーマパークは難しい」と感じました。それが、地域やワタミグループの皆さんの支援により、全体の10%くら いですが命を育む空間ができました。これからも皆さんに参加いただき、少しずつ進化させ、20年後、すべての命(太陽、土、水、 空気、微生物、動物、人など)のつながりを感じることができるオーガニックランドを創り上げます。是非、一度お越しください。



美味しさの秘密は、おいし ワタミオーガニックランド株式会社 いことだけでなく、季節感があり、体 代表取締役社長 にやさしいメニューづくりを心がけています。 小出 浩平 地産地消、地元密着で持続可能な安全・安心な 原料にこだわり、やみつきになるような商品提供を

そして、オーガニックランドの未来の為に。 MAKOTOYA CAFEプロデューサー 田中実

ソフトクリーム

喫煙所

OPEN 渡しはこちら!

キッチンカー

芝生広場整備中

草屋根

トイレ

し続けます。すべては、お客様の笑顔が見たい為。



ら秋に栽培します。農 場体験もできます。

ブドウ 園 木製のビニルハウス

で、葉物類を栽培。

太陽光発電を備えたハ

シェアリング農園です。



計画準備中

OPEN

木づかいハウス

ハウス

20年かけて、23 haの土地をみなさんと一緒 に作り上げていく参加型のテーマパークです。 自然、命、『当たり前』に感謝しながら理想の循 環型社会の縮図をみなさんと一緒に作る壮大 なプロジェクトです。

農場企画 部谷 文-

お食事もできます。

「津波で宅地や病院や畑や田んぼが流された ところに農地をつくる」とてつもない挑戦です。 ようやく2021年から収穫体験ができるような圃場の準

備も整い、少しずつですが夏野菜も 育ってきています。土が少なくても済 む根域制限という栽培方法でブドウ の栽培も開始しました。3年後には収 穫したブドウをワインにして皆様にお 届けできるよう精進してまいります。

ワタミファーム本部 西岡 亨祐



発酵の里

ゆめポスト **ゆめポスト** こちらでBBQの食材をお渡し 思い出と将来 します。物販でオーガニック の夢を投函。 食材などをお土産にどうぞ!

物 販・インフォメーション

木 整備中 みんなで森づくり。 屋敷林がある風景の 再生をめざします。

市民の大きな期待も背負い、現地メンバーが 日々、試行錯誤してくれています。 私は微力ながらそのサポートをしています。 ようやくオープンし、まだ小さな1歩目ですが 今後の展開に期待してください!

ワタミの思いを具現化する為に、また陸前高田

ワタミオーガニックランド経営管理担当

前高田 とともに 2 0 年



バイオジオフィルター 建設予定

レストラン棟 22年OPEN予定

園内に降った雨水

を循環・浄化して

再利用します。



SDGs 日本一と、未来の子どもたちのために 環境活動の歩みは止まらない

「陸前高田ワタミオーガニックランド」開業をはじめ、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けながらも、ワタミグループの環境への取り組みはその歩みを止めることはありません。そこにある思いや、達成すべき目標に向けた考えなどを、代表取締役会長 兼 社長 渡邉美樹 と、執行役員 SDGs 推 進本部長 百瀬則子の対談で紹介します。

コロナ禍でも変わらぬ環境への取り組み

百瀬 この1年、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて社会は大きな変化を強いられ、SDGsや環境保全への関心が薄れていると懸念されています。その中でワタミグループの取り組みは着実にその成果を上げてきました。

渡邉 世界中に影響を及ぼすようなパンデミックは、1918年から 1920年にかけて流行したスペイン風邪以来のことです。現代社会においては誰にとっても初めての経験ですが、それが環境活動をワタミがストップする理由にはなりません。なぜなら、この活動は我々の存在そのものだからです。ワタミは状況がどうであろうと続けていく。そのためにコロナとどう向き合うかを考え、できるかぎりのことをやってきました。

百瀬 SDGs は 2030年までの持続可能な開発目標ですが、そこで終わりということではありません。未来に向けた取り組みの最初の10年だと思うのですが、10年先、あるいは50年先、ワタミの取り組みはどのようになっているでしょうか?

渡邉 ワタミには「地球人類の人間性向上のためのよりよい環境をつくり、よりよいきっかけを提供すること」というミッションがあります。 "人間性向上のためのよりよい環境"とは何かといえば、十分な食事がとれて、きちんと教育が受けられ、働き甲斐のある仕事に就けること。豊かな森やきれいな海などの自然も大切です。すなわち、我々が追い求めるのはSDGs そのもので、これは10年先、50年先も変わりません。取り組みの内容が変わることはあっても、その取り組み姿勢が変わることはないのです。

取り組み内容や成果を見える形で示す

百瀬 SDGs 推進本部を設置して3年、その間に"脱炭素""資源循環" の、本業の中での環境活動が進みました。

渡邉 そうですね。そうした取り組みが進むのはいいことですが、スローガンで終わらないように、我々はもっと具体的に、目標やそこに至る経過も含めて、見える形で示していきたいと考えています。「RE100」※1の取り組みも2040年までに100%再生可能エネルギーという目標を掲げていますが、ゼロからいきなり100にはなりません。一昨年に「三代目鳥メロ」笹塚店で100%再生可能エネルギーへの切り替えが完了し、愛知県津島市の「ワタミ手づくり厨房」中京センターや、本社での取り組みなども進めていますが、いつまでにどうやって30%、50%にするか、マイルストーンを示す必要もあると思っています。

※1 脱炭素を目指して、事業で使用するエネルギーを100%再生可能エネルギーにするという宣言 **百瀬** 中期目標を掲げて、確実に達成し続けるために、何が必要だとお 考えですか。

渡邉 一人ひとりが意識を変え、行動することです。たとえば「RE100」 達成のために資金を投入して、再生可能エネルギーを購入すれば、何の 努力も必要ありませんが、それは企業の成長を阻むことになります。企業が成長を続けながら達成することが大事で、そのためには機器の見直しや新たな投資以外に、コストを減らすために知恵を絞り、例えば余分なコピーを減らす、節電するといった一人ひとりの行動が必要です。 環境問題は企業の努力だけでできることではなく、一人ひとりが未来の子どもたちのことを思い、自発的に行動を変えていくことが重要です。

百瀬 再生可能エネルギーの導入を進める一方で、資源循環の取り組みも進めています。愛知県からスタートした「ワタミの宅食」のプラスチック容器回収リサイクルも全国に拡大しました。

渡邉 使用済み容器を回収して、新たな容器としてリサイクルする仕組 みはできましたが、回収率はまだ全体で50%程度です。お客様にもっと 積極的に参加していただけるように、働きかけていく必要があります。

百瀬 まごころさん※2との会話を通して、容器回収の意義を伝えたり、自分たちの孫が暮らす未来の環境や暮らしを想像したりすることで、お客様の意識も変わっていくと思います。ただ、最近は会話の機会も減っていて、難しいですね。

渡邉 しかし、伝える方法は会話だけではありません。伝えるための工夫、情熱が大事です。一方で、我々としては他の企業とも連携して、弁当容器以外のリサイクルの仕組みづくりも進めていかなければいけません。 百瀬 そうですね。すでに名古屋市では外食企業5社と提携し、店舗か

ら排出する残った食材を集めて飼料原料にして、育てられた鶏の卵を 買い戻すという食品リサイクルの流れもできています。

※2宅食弁当を各家庭に届けるとともに、高齢者の見守りも行う配達担当者

未来を生きる子どもたちのために

百瀬 今年4月には岩手県陸前高田市に「陸前高田ワタミオーガニックランド」がオープンしました。これも新型コロナの影響もあったと思いますが。

渡邉 確かに影響はありましたが、このタイミングでオープンできたことで、コロナ禍でも我々は大切なことを見失ったり、後回しにしたりしないという姿勢を示すことができたと思います。

百瀬 そうですね。ここでは5つの命題を掲げていますが、5番目の「子どもは未来の地球に対してワクワクし、大人は、未来の地球に対して責任を感じる場所であり続けます。」が、心に刺さりました。

渡邉 子ども時代に大いにワクワクして、大人になったら責任を持つ。 それは当たり前の順番で、それをつなげていく場所にしていきたいです ね。ここはワタミグループが推進する6次産業モデルを具現化する場であり、命と向き合う場所でもあります。命が循環する有機農業を実践し、命の尊さを感じられる場所にしていきたい。有機農業のテーマパークといっていますが、実は、命のテーマパークなのです。

百瀬 修学旅行のメッカにしたいとお聞きしましたが、子どもたちにどんなことを学んでほしいとお考えですか。

渡邉 自分の命は自分だけのものではなく、ほかの命とつながっているということ。家族とか、血のつながりだけではなく、土の中に微生物がいて、そこで作物が育ち、それを食べる人や動物がいて、やがて土に還る。それを理解すると、ほかの命に対する思いやりが生まれ、人や自然を大切にしようと思うようになるのではないでしょうか。

百瀬 おっしゃる通りですね。そうした自然と子どもたちが触れ合う機会として、「北海道わたみ自然学校」があります。これは、20年以上になりますか。

渡邉 開校して25年目になります。最初は参加者が集まらず、うちの子どもや、取引先様に声をかけてようやく集めたんです。その子どもたちが今では立派な社会人になり、SDGsの担い手として活躍しているのはうれしいですね。

百瀬 「持続可能な開発のための教育」(ESD)が提唱され、国連総会決議で2005年から2014年までの10年間を「国連ESDの10年」とする決議案が採択されたのが2002年です。それ以前からSDGsにつながる思いをもち、継承してきたのは素晴らしいことです。これはどのようなきっかけで始まったのですか。

渡邉 帯広の実験農場で有機栽培を始めたとき、私自身は農業経験がまったくありませんでした。そこで、自分でもやってみたいと思い1日体験をしたのですが、空が広く、風が心地よく、土が柔らかで、すべてが気持ちいい。子どものころにこの体験をしたかったと思い、子どもたちのための自然学校をつくろうと決めたんです。

百瀬 私も一昨年から参加していますが、本当に素晴らしい自然体験です。自然の中で遊んだ子どもたちが大人になって、自然を大切にして欲しいですね。

SDGs日本一に向けた確かな歩みを

百瀬 最後に、今は困難な時代といわれますが、その中で行き先を見失うことなく、SDGs日本一を目指し、未来の子どもたちのために頑張っている社員や取引先の方々へのエールをお願いできますか。

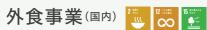
渡邊 「無理はしないで」と言いたいですね。我々の取り組みは続けることが大事です。そのためには、「静かに、健やかに、遠くまで」。これを1日3回、自分自身に言い聞かせています。思いが強いと、つい無理をしてしまうこともありますが、遠くまで行こうと思うなら、静かに、健やかでなければいけません。そしてもうひとつ。皆、同じ思いを共有してほしい。SDGsにさほど関心を持たずに入社した社員も多いと思いますが、そういう人は"なぜ、こんなことをやっているんだろう"、"なぜ、こんなことに本気なんだ"という疑問をもってほしい。疑問を持ち、関心を持つことで、どこかで"あ、そうか"と気づく。そうやって、気持ちを近づけていくことで、無理なくともに歩んでいける仲間になってほしい。お取引先の方々も同じです。ワタミの思いを少しでも理解していただき、協力していただければそれ以上にうれしいことはありません。

百瀬 自ら気づく、自ら歩み寄るということが大事なんですね。

渡邉 誰かに後ろから押されて歩くのは、本当の歩みではありません。 最初の話に戻ってしまいますが、環境というのは一人ひとりがその大切さに気づき、意識を変えていかないとよくはならないのです。 大事なのは、自分らしく、自分の思いと向き合って、やり抜くということ



再生可能エネルギーを利用した循環型6次産業「ワタミモデル」を、SDGsの実現を目指して推進していきます



おいしいものがあって、良いサービスがあって、 良い雰囲気がある場所に、好きな人と一緒にい る。こんな快適な空間、笑顔のあふれる場面を 一つでも多く提供していきます。









外食事業(海外) 👑 🔯 🛂

48_{店舗}9_{地域}

「飲むだけでなく、食べるだけでなく」という日 本の「居食屋スタイル」を、楽しく気軽に味わっ ていただくことを目指し、現地のニーズにあわ せて海外展開をしています。





宅食事業

日替わりのお弁当・お惣菜と「まごころ」を届け る。これらを続けることで、社会に欠かせないイ ンフラとなる。お客様のいきいきとした生活の 実現をお手伝いします。







527 拠点

ワタミモデル



ワタミモデル

再生可能エネルギーを利用した循環型6次産業モデル

ワタミファームで採れた有機野菜(1次産業)は、ワタミ手づくり厨 房で加工(2次産業)され、ワタミグループの外食事業や宅食事業 (3次産業)をつうじて、全国のお客様に提供されています。持続 可能な循環型社会の構築を目指すワタミグループでは、環境負荷 を軽減するための取り組みや、再生可能エネルギー事業として発 電設備の開発・建設・運転管理にも取り組んでいます。この一貫 統合された"独自の6次産業モデル"が、ワタミグループの事業を 成長させ、さらにあたらしい事業領域の可能性を広げています。



陸前高田 watami

「陸前高田ワタミオーガニックラン ド」はワタミモデルを具現化する有 機農業テーマパークであると同時 に、東日本大震災で大きな被害を受 けた陸前高田市の地方創生に貢献 することが目的の施設です。

農業



地域に根ざした有機農業を発展させ、永続的 に有機農業に携わっていける環境を整え、豊か な地域社会を未来につなぐ有機循環型モデル タウンづくりを推進しています。



624 ha 11ヵ所







環境事業





風車1号機、ルーフソーラーパネル2020年度の発電総量

6,415,666 kWh

事業活動で発生する環境負荷を可能な限り低 減する取り組みをしています。再生可能エネル ギーによる発電、電力の販売などで、地域の資 源やエネルギーが経済的に循環する「持続可能 な循環型社会づくり」を目指しています。







人材サービス 🎁 🥻 事業

W&I DREAM MODEL



外国人材一人ひとりが持っている「夢」を実 現するため、母国での教育から、出国、日本で の仕事・生活、帰国後の仕事の紹介までを トータルサポート。企業には、高いモチベー ションを持った優秀な人材を紹介します。

Watami Agent

ワタミグループの従業員の多様な働き方を推 進するために、「ワタミエージェント株式会 社」を設立しました。ワタミモデルの推進・ 個々の夢・目標達成のため、他企業での学び ある就業機会を提供しています。

経営理念、会社概要、沿革・歴史等はワタミ株式会社の公式ホームページの企業情報をご確認ください。 https://www.watami.co.jp ※数値は2021年3月時点。

SDGs 宣言

ワタミはSDGs日本一を実現し 地球上で一番たくさんの"ありがとう"を集めます



2019年第定

ワタミ サスティナブル方針

2018年第定

SDGs宣言

ワタミは SDGs 日本一を実現し 地球上で一番たくさんの "ありがとう"を集めます

2010年認定 エコ・ファースト の約束

詳細はP11

1999年策定 環境宣言

美しい地球を 美しいままに、 子どもたちに残していく

ワタミ サスティナブル方針

ワタミグループは、外食事業、宅食事業、原料調達から消費までのサプライチェーンを構成する事業、 農業、エネルギー事業において、経済的・社会的・環境的ニーズの充足、従業員の幸せ、 地域貢献などの持続可能な企業活動を通して、SDGsを達成します。

- 持続可能な企業活動に関わる法律・条令、ステークホルダーと締結した協定、合意、エコ・ファーストの約束、 イニシアチブ等を確実に遵守し、お客様ならびに一般市民・行政機関、お取引先業者様とのパートナーシップをとり、 持続可能な社会の実現に努めます。
- 全従業員が持続可能な社会への関心を持ち、サスティナブルマネジメントシステムを理解し、正しく運用することにより、 2 汚染の予防、環境保護、並びに持続可能な開発目標(SDGs)を推進し、継続的な改善に努めます。
- 持続可能な社会を目指したサスティナブル目標を設定し、事業活動を通じてその達成に努めます。



- ●脱炭素社会の実現に向け、省エネ・再生エネルギーの 導入によりCO2排出削減を推進します。
- ●循環型社会の実現に向け、廃棄物の発生抑制と 資源循環を推進します。
- 自然共生社会の実現に向け、生物多様性保全活動を 推准します。
- ●持続可能な社会の構築を目指し、社内外でSDGs達成 のための教育を推進します。

サスティナブルマネジメントシステム(PDCA モデル)を確立し、継続的に改善し、経済的・社会的・環境的パフォーマンスを 向上し続けることで「地球上で一番たくさんの"ありがとう"を集めるグループ」を目指します。

15 ---- サスティナブルマネジメントシステム

CONTENTS -

- 01 ----特集:ワタミオーガニックランド
- 03 ……トップインタビュー
- 05 ---- 会社概要・サスティナブル方針
- 07 ---- SDGsタスクフォース
- 11 ---- エコ・ファーストの約束
- 13 ----マテリアルバランス
- 21 …… 食品リサイクル 23 ----- 容器包装リサイクル 25 ── 自然共生社会の構築 ■

19 -----脱炭素社会の構築 ■

21 ⋯⋯循環型社会の構築 ■

- 27 ---- ESD
- 29 ----- 従業員の幸せ日本一をめざして
- 31 ---- 社会貢献活動
- 33 … ワタミグループが支援する社会貢献団体
- 34 ----- 第三老音貝
 - 関連 脱炭素社会 自然共生社会 1 ■ 循環型社会 ■ 持続可能な社会

ワタミでは外食事業のテイクアウト商品や、宅食事業で容器包装を使っています。それらは商品の食品衛生管理、品質保持にどうしても必要ですが、地 球の限りある資源を原料にし、さらに焼却することで地球温暖化の原因にもなります。事業活動で発生する使用済み容器をできるだけ3 Rに努め、サー キュラーエコノミー(廃棄を出さない資源循環型経済)の実現を目指し、さらに環境負荷の少ない素材の導入を図っています。

商品企画

「いつまでも住み続けられる地域」に貢献

地域資源循環社会の構築と海洋プラスチック汚染を防止する。

●事業活動から発生する廃棄物を再資源化し、

廃棄(再資源化)

生産(工場) 販売(営業所)

目的 サーキュラーエコノミー(廃棄を出さない資源循環型経済)の実現 2022年度 3月期末 60%の達成(弁当容器)

2030年度 回収率 100%の達成

●ダイレクト(冷凍のお惣菜)容器回収方法と脱プラ化の検討

●宅食の容器回収タスクフォースからグループ全体の脱プラタスクフォースへ

●回収率向上、脱プラ化の検討(バイオマス比率向上、代替素材)

容器包装タスクフォース

SDGs

2015年、193の国連加盟国すべてが「誰一人とり残さない-No one will be left behind」を掲げ、持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)のための 2030アジェンダを採択しました。

SDGsタスクフォース

個人が関り、取り組んでいます。



















ワタミ SDGs 宣言

SDGs は、現在のことだけではなく、未来に生きる人たちに思いを馳せ、環境問題だけではなく、貧困や飢餓、人

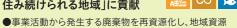
権や労働問題など、世界中の課題を17の目標にしています。目標達成のために国だけではなく、企業や自治体・

ワタミはSDGs日本一を実現し、地球上で一番たくさんの"ありがとう"を集めます

ワタミは2019年10月にSDGs推進本部を設立し、本業の中でSDGsに取り組むために、各事業本部から選出したメンバーによ る社内組織横断タスクフォースチームを組織しました。2020年にタスクフォースチームによりワタミが取り組む SDGs マテリアリ ティ(重要課題)を特定し、KPI(中間目標)・KGI(2030年目標)を立て、目標達成のために組織横断で取り組んでいます。その進 捗状況は毎月開催するSDGs 会議で経営者層に報告し、推進のための提言を受け、事業活動の中で実践しています。

ワタミグループのマテリアリティ(重要課題)

宅食事業:「いつまでも 住み続けられる地域」に貢献



●弁当の宅配を通じて、高齢者の栄養補完で健康を守り、 見守りを含む自治体との協定により安全を図る。

農業事業・外食事業:

循環社会を構築する。

オーガニック農業生産の食材提供で、 地球環境と生産者・消費者の健康を守る。

- ●ワタミファームは有機栽培圃場面積拡大で、持続可能な 農業生産を推進する。
- ●外食店舗では、あらゆる出会いとふれあいの場と 安らぎの空間の提供、そして安全安心な食材メニューで 消費者の健康増進を図る。

RE100を2040年までに実現し、 脱炭素社会構築に貢献する

●すべての店舗、工場、事業所で再エネ電力100%を 実現する.

すべての従業員が国籍や性別・ 年齢・障がいの有無に関わらず、 平等で公正な、それぞれの能力を活かし、

働き甲斐のある職場を目指す。

- ●女性や障がい者にとって、働きやすい職場環境を整備する。 ●従業員の能力開発や技術取得の機会を設ける。
- ●子育て支援や介護離職を防ぎ、働き続けられる制度を整備する。

KPI(中間目標)

タスクフォースチーム:容器回収リサイクルプロジェクト

- ●弁当容器回収リサイクルシステムを構築し、地域の廃棄 物と焼却によるCO2の削減、海洋プラスチック汚染防
- ●2022年3月までに、宅食配達する1都2府37県全地域 で容器回収リサイクルを実施。容器回収率60%達成

2030年 KGI(最終目標)

- ●事業から発生する廃棄物をす べて再資源化する。(食品リサイク ルループ・容器包装回収リサイクル)
- ●宅食弁当を配達する全地域で 自治体と見守り協定を締結し、 高齢者の安全・安心を図る。

●2023年までに、日本一のきく芋

生産農場19ha 出荷量300t

●従業員の健康日本一(生活習慣

●2030年までに、600haの有機

●きく芋販売数100万点

病罹患率)を達成する。

栽培自社農場面積にする。

◆全事業で使用する電力の

再工ネ電力40%を達成する。

タスクフォースチーム:オーガニックプロジェクト

- ●オーガニック農産物「きく芋」の生産拡大で、地球環境と
- ●2022年3月までに、栽培面積8.1ha 生産重量150t
- 健康増進効果を公開する。

- 生産者の健康保全と消費者の健康増進に貢献する。
- ●科学的エビデンス作成および社内モニターによる

タスクフォースチーム: RE100 プロジェクト

- ●外食店舗RE 100店舗を継続的に増やし、営業活動を通 して、消費者や地域社会に啓発を目的としたコミュニ ケーション活動を行う。
- ●2021年に本社を再エネ電力 100%にする。
- ●2024年3月までに5つの食品工場を再エネ電力100%にする。
- ●2024年3月までにRE100店舗を100店舗にする。

タスクフォースチーム:ジェンダー・ダイバーシティ

- ●ジェンダー·ダイバーシティタスクフォースチームを
- ●社外からの情報を収集し、具体的に取り組みを進める。
- すべての従業員に、平等で公正な、 能力を生かされた働き甲斐の ある職場を実現する。
- ●ダイバーシティ・インクルーシブ な組織を構築する。

本業の中で取り組む SDGs タスクフォースチーム

13 *******

進捗状況は毎月開催するSDGs会議で経営者層に報告し、推進のための提 言を受け、事業活動の中で実践しています。また、環境の分野はワタミのサス ティナブルマネジメントシステム(ISO14001に準拠)で、各事業部毎に目標 を定め PDCA サイクルを回して着実に推進しています。



専門家による講義

営業所の取り組み

宅食事業



各営業所では、2021年度末の回収率目標を設 定し、達成に向けて活動しています。愛知安城営 業所では、まごころスタッフが SDGs の取り組み を理解するために、リサイクルループやCO2削 減量について、分かりやすく貼り出しをしていま す。2021年度の目標は80%と志高く、日々取り 組んでいます。

様に、ワタミの取り組みを「知っていただき、もっと理解を深める」ことを目指しています。

営業所長への啓発

従業員教育の一環として「リサイクルループツ アー」を継続的に開催しています。これは実際に 現地に伺って見学し、自社の取り組みをより深 く理解し、今後の仕事に役立てるという目的の ために開催をしています。



容器包装タスクフォースチームは、最初に宅食事業においてのサーキュラーエコノミーの実現を目指しました。2019年5月より地域別に「ワタミの宅 食」のお弁当をリターナブル容器からバイオマス容器に変更し、さらに、お客様から回収してリサイクルをするという「リサイクルループ」を、2021年3 月関東地区の導入をもって全国展開を達成しました。現在は営業所・本部が一丸となって、容器回収率向上を図り、まごころスタッフ(配達員)やお客

まごころスタッフ(配達員)への周知



容器回収の目的や環境に対する取り組みを伝 え、写真入り作業マニュアルを営業所に掲示して います。毎日の朝礼では、営業所長から回収率の 報告、今後の取り組みが共有され、まごころス タッフがお客様へ自分の言葉で伝えられるよう に、継続的な教育を行っています。

お客様への協力依頼

「ワタミの宅食」のお客様へ、メンバー限定の会 報「宅食らいふ」を毎月お届けしています。2021 年6月号では、「お客様が返却された容器が、ど のようにリサイクルされているか | を分かりやす く紹介しました。今後もお客様への丁寧な説明 を継続します。



次の目標は、さらに大きく捉え「グループ全体」での活動へその輪を広げます。 プラスチック新法を遵守し、「SDGs日本一」になるため計画を遂行します。

ワタミグループで備品・包材の調達基準を設定 サーキュラーエコノミー(廃棄を出さない資源循環型経済)の実現



①脱炭素社会の実現 ②循環型社会の実現 ③自然共生社会の実現

持続可能な社会を目指した備品、包材を選定する。 選定基準を年々引き上げを図る。さらに月ごとに選定 数量を決め、数値化して評価し評価表を作成するなど。

■ 標 2022年度:外食で使用するワンウェイのプラスチック製品を 環境配慮型へ切り換え、使用量5%削減 2030年度:外食で使用するワンウェイのプラスチック製品を

環境配慮型へ切り換える テイクアウト容器・カトラリーのリーズナブルな脱プラ製品の提案、 有料提供の検討、店舗回収、リサイクルスキームの構築

外食の取組み

「から揚げの天才」 弁当容器の軽量化でプラスチック 使用量を2021年は4t削減へ

「から揚げの天才」ではお持ち帰り容器を、リスパック株 式会社の協力を得て、弁当容器の素材の厚さを薄くする

25%使用したレジ袋に切り替え、無料提供しています。

ことで軽量化し、プラスチック使用量を約7%削減することに成功しました。 2023年度以降は、さらに使用量を約8%削減、年間使用重量は約6tの削減を目標に 軽量化へ取り組みます。また、レジ袋は、地球温暖化防止に寄与する植物由来素材

ILSD

「bb.q オリーブチキンカフェ」

マドラーを現在のプラ素材から代替素材の木製 へ変更し、スプーン・フォークなどのカトラリーも 代替素材である紙製へ変更を進めています。



「TGIフライデーズ」

テイクアウト容器をプラスチック製の容器から、代替素材の紙製へ変更しました。 また、新規テイクアウトメニューではプラスチックを無くし代替品の提供を推進し ています。

容器包装タスクフォースチームリーダーのメッセージ -

渡邉一昌(仕入開発本部)

この循環型社会への取り組みは大変意義のあることと感じると同時に、 大きな責任も感じています。ワタミグループが100年後も社会から必要 だと思われる企業として存続するために、グループ全体で2030年まで に「グループのプラスチック容器包装使用量50%(2020年度比)以内に すること」を目標にします。



宅食事業本部長のコミットメント

肱岡 彰彦(宅食事業部 副事業部長)

宅食事業部では、サーキュラーエコノミーの実現に 向けて、2030年度までに容器回収100%を達成しま す。お客様のご協力をいただかなければできないこと ですが、丁寧に説明をしながら実現を目指します。



3 栽培における



障がいや難病のある方が 白分のペースで 働けるように作業を 整理しています

2

栽培管理で

就労支援

農業の推進、圃場拡大によりSDGsの達成と地球環境への貢献を目指しています。

生産

商品企画

M

CO2の吸収効果

例えば生姜に比べ、3倍以上 の葉がつくられるので 光合成が活発に行われます。

4 きく芋のイヌリンで 健康をサポート

月 標

オーガニックタスクフォース

広報

ワタミでは安全・安心な食材をお客様に提供したいという思いから、2002年より有機農業に取り組んできました。以前は外食店舗の原料としての利用が

中心でしたが、今後は加工品の開発に力を入れていきます。オーガニック商品の販売を拡大することで、より多くの人の健康に貢献し、環境保全型の有機

教育

その他、亜鉛などのミネラル分、 ポリフェノールやビタミン B群など「きく芋」には体を 元気にする栄養素が 含まれています。



食糧対策 有機圃場 拡大 栽培方法の仕組み化で、 耕作放棄された農地を きく芋 再生しています。 拡大 販売拡大

2020年度活動と成果

2030年ゴール:

有機農業で

大切な土づくり

農場の近くで調達できる

畜ふんや有機資材を

十づくりの肥料として

使用しています

きく芋の 112=3!

有機農業の推進により、

人と地球の健康に貢献します

②商品を通じてより多くの方の健康に携わる

①有機栽培圃場の拡大(持続可能な環境配慮型農業)

③ 障がい者雇用機会の拡大(耕作地域の農福連携)

ワタミファームで有機「きく芋」の栽培を開始。(出荷量30t) 外食・宅食事業で、きく芋を使用したメニューを展開しました。 「きく芋」の社内認知を進めるため、社内用のVTRレターでの特集 や、きく芋の栽培や収穫を体験する農場研修をスタートしました。



栽培スタート



TOPICS

糖や脂質の吸収を抑制

(血糖値の急上昇・急等下) グルコーススパークを防ぐ

腸をデトックス・栄養吸収を促進

代謝を高めメタボ改善

小温 (ターイヌリン



各事業

販売促進

有機栽培圃場を拡大し、持続可能な農業のモデルを構築

2030年度: きく芋販売者数100万人(年間のべ)

5

2023年度:社外への広報活動によりきく芋=ワタミの第一想起獲得

きく芋の商品化とブランディングによる新規顧客・販路拡大。

健康貢献の実現のため足元の社員の健康状態を改善。

従業員の健康日本一の実現(従業員の幸せ7項目)



有機圃場の

拡大

きく芋の健康効果について

水溶性食物繊維"イヌリン"を豊富に含んでいます。

ーガニック野菜のシーザーサラダ きく芋パウダーを配合したご飯 (スーパー BIO フードきく芋いり) (ワタミの宅食のお弁当)

①小腸で糖、脂肪の吸収を抑制する事で

③善玉菌の餌となり腸内環境を改善する

事で免疫向上、コレステロール値の

善玉菌の餌・短さ脂肪酸を産生

食後血糖値上昇を穏やかに

②腸の老廃物を掃除する事での

改善などに効果があります。

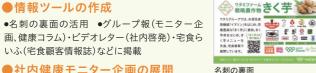
栄養吸収を促進

2021年度 目標と計画

ワタミファームでの栽培量を2020年実績の30tから150tに拡大。自社栽 培の有機きく芋を積極的に販売していくため、従業員自らがきく芋の発信が できるようコミュニケーションツールや、情報提供等の環境を整えていきま す。また、きく芋の健康効果を実証するため、きく芋茶の社内モニターを開始 し、効果を示すデータの集積などを行います。

●情報ツールの作成

●名刺の裏面の活用 ●グループ報(モニター企 画、健康コラム)・ビデオレター(社内啓発)・宅食ら



●社内健康モニター企画の展開

社員自身が健康を実感できるように、生活習慣病や予備軍の社員に、きく芋茶を 一定期間飲んでもらい、健康への効果を測定します。



機能性表示食品の取得へ向けた取り組み

きく芋の主要商品において、商品の効果を伝えられ るよう消費者庁が管轄する機能性表示食品制度の 届出を進めています。

2021年度はワタミオーガニック有機きく芋茶 (ティーバック)にて「食後血糖値の上昇抑制」の届 出準備を行っています。



2022年度に向けて、各事業部での周知、企画を推進します

- オーガニックタスクフォースチームリーダーのメッセージ -

永山 美緒子(ワタミオーガニック推進部)

食物繊維を摂ることで腸内環境を改善することが生活習慣病予防に重 要だといわれています。きく芋に含まれる水溶性食物繊維のイヌリンは、 効果が期待できる栄養素です。こうしたきく芋の効果が伝わるような商 品の開発とプロモーションを行い、より多くの方の健康に貢献できるよ う取り組んでまいります。



ワタミファーム社長のコミットメント -

イヌリン

門司 実(ワタミファーム社長)

ワタミファームでは素晴らしい素材である「きく芋」 の有機栽培と研究開発に使命感を持って取り組ん でおります。未来の子どもたちが安心して暮らせる 地球環境に向けて、今後も積極的に栽培規模の拡 大に注力していきます。



短さ脂肪酸

RE100 タスクフォース

ワタミは「美しい地球を美しいままに、子どもたちに残していく」という環境宣言を具現化するために、秋田県にかほ市にワタミの風車「風民(ふーみん)」 を建設、2018年にはRE100宣言をしました。RE100を宣言した企業は年々増加し、脱炭素社会の実現に向けた動きは世界のみならず日本でも広がり つつあります。ワタミサスティナブル方針に則り、RE100を促進し脱炭素社会の実現を図り、SDGsを達成し持続可能な社会の構築に貢献します。

> 各事業部 RE100計画

雷力削減

(ワタミエナジー)

店舗・党業所

広報

※再生可能エネルギー由来の電力を「再エネ電力」と記載しています

RE100を2040年までに達成し、



SDGs7:エネルギーをみんなにそしてクリーンに

SDGs13:気候変動に具体的な対策を

に貢献し、脱炭素社会を構築します。

目的

2023年度100店舗 300

2030年度300店舗

を目指す

再エネ電力による脱炭素社会の実現 2040年までにすべての事業所でRE100を達成

目 標 ●全事業所での省エネ活動と省エネ機器への入れ替えを行う。 今後の課題

●外食店舗のRE100を拡大する。

●自社発電と地域電力購入により全事業所でRE100を実現する

RE100 タスクフォースチームの活動

使用電力を削減し、順次、 再エネ電力を購入

2040年までに全事業活動で使用する電気の再生可 能エネルギー化を図るために、省エネ活動と設備改 善の長期計画を策定しています。自社発電施設であ る秋田県にかほ市の風力発電は、FIT制度(固定価 格買取制度)終了後に自社消費が可能です。それま では本社・全事業所で使用電力削減を図りながら、 地域電力の購入などで再エネ電力に切り替えを進め ていきます。

RE100店舗の取り組み展開

外食店舗のRE100を「bb.qオリーブチ

キンカフェ」にて加速させていきます。店

舗内の省エネの取り組みを強化し、電

力使用量を減らし、再エネ電力を導入し

活動 再エネ店舗で従業員やお客様と 一緒に環境を考えるきっかけを提供

2019年7月に「三代目鳥メロ」笹塚店をワタミグ ループで初めて100%再エネ電力に切り替え、再エ ネ電力普及ポスターの掲示や、従業員がRE100を テーマにしたTシャツを着て、従業員やお客様に環 境について考えるきっかけを提供しています。2020 年度は新型コロナウイルスの影響で多店舗展開が できませんでした。2021年度は、外食店舗や食品工 場での再エネ電力の導入拠点を増やします。

活動 脱炭素社会実現に向けた取り組みに ついての情報開示を進めます

ワタミは RF100 宣言企業として. 宣言に対する情報開示が求められます。 RE 100

【ワタミグループ「RE100」の目標】 ① 2040 年までに事業活動で消費する電力の100% を再生可能エネルギーにします

②中間目標として、2035年までに事業活動の消費電 力のうち50%を再生可能エネルギーにします

宅食営業所のRE100に向けて

宅食の営業所では電気の契 約は基本的に電灯(=主に照 明)と動力(=主に冷蔵庫)の 2契約あります。2022年度か ら削減しやすい電灯の契約 から、再エネ電力の導入を進 めます。



「ワタミ手づくり厨房 | 中京センター(食品工場) RE100 達成と横展開

食品工場では、2019年にRE100タスクフォースチーム発足以来、再エネ 電力を導入するために、まずは省エネ活動と、省エネ機器の導入・設備の入 れ替えを行いました。

2021年度より「bb.q オリーブチキンカフェ」において

●照明のLED化を実施した。

ます。

●宅食弁当容器をリターナブル容器からワンウェイのエコ容器に変更した。

洗浄稼働短縮による使用電力・水量の大幅な削減をした。 ●生産工程の見直しによる、リードタイム短縮・稼働時間短縮を図る。

●フロン漏えい防止も含め、空調機器の入れ替えを推進する。

■食品工場の電力使用	量の推移			
年度	2018年	2019年	2020年	2021年目標
使用電気量(kwh)	10,260,098	9,120,988	7,729,337	5,413,228
2010 左连川		0.0.00/	75.20/	E2 00/

また、生産拠点である食品工場を7センターから5センターに集約し、生産 効率とエネルギー効率を向上しました。

ハード面だけではなく、実際にセンターを運営する従業員へ「もったいない 意識」を浸透させることにより、使用電力削減につなげました。

2021年度中に愛知県の中京センター(食品工場)はRE100を実現し、残る 4つの食品工場を2023年度までにRE100にする計画です。

宅食弁当はすべて、地球環境に配慮した再エネ電力で生産する体制を目指 しています。「ゼロカーボン弁当」を生産し、宅食営業所のまごころスタッフ も、お客様にも喜んでいただける、そして未来の地球環境に貢献するものづ くりを実現します。

本社のRE100達成と今後の電力削減取り組み

2021年度、ワタミ本社ビルは省エネ活動と設備改善を推進し、再エネ電力へ切り替え、RE100を実現します。省エネ活動としては、エアコンのタイマー制御によ るスイッチングの徹底、エレベーター使用回数の削減を実施。設備改善としては照明をLED器具に付け替えることで、52%の使用電力の削減が見込めます。再エ ネ電力を購入すれば RE100 は達成できますが、電力使用量を最低限まで抑制し、再エネ電力に切り替えることが重要です。外食店舗や食品工場での再エネ電力 の導入についても同様の考えで取り組みを進めます。

·RE100 タスクフォースチームリーダーのメッセージ -

山崎 輝(ワタミエナジー)

RE100達成への取り組みに関して、ワタミでは環境と経済の両立 (W-eco)が重要だと考えています。RE100に取り組む拠点では、再エネ 電力導入のためのコスト増と同等の費用を、省工ネ活動や生産合理化な ど様々な取り組みで削減していることが前提です。これがワタミの取り組



ワタミエナジー社長のコミットメントー

高橋雅彦(ワタミエナジー社長)

ワタミエナジーはグループの成長に伴って必要量が 増加していく再エネ電力をRE100が達成できるよ う不足なく調達します。そのために再工ネ施設への 投資、地域電力との繋がり強化など、様々な施策を 講じます。

















ワタミグループ(海外事業と一部連結子会社除く)は、業界のトップランナーとして、2010年に環境省から外食企 業として唯一「エコ・ファースト企業 |の認定を受け、今日に至っています。2019年10月にエコ・ファーストの約 束を更新する際、SDGsを取り入れた約束に刷新し、グループ内外に公表いたしました。SDGsを経営の中核課題 に取り入れ、お客様、地域、行政機関、お取引先様、従業員が一緒になって持続可能な社会を目指していきます。

2020年度の進捗状況

2020年度は新型コロナウイルスの影響を受け、経営を取り巻く環境は非常に厳しいものとなりました。そのような時であっても、従業員一人ひとりの環 境への意識やパフォーマンスが低下しないよう努めました。低炭素社会の実現では、RE100達成のための実行計画の見直しに加え、スコープ算定の第 三者検証を実施しました。循環型社会の実現では、2019年の中京センターに続き、東松山センターで食品リサイクルループを構築しました。自然共生 社会の実現では、農業における有機農場の拡大が遅れていますが、既存農場の運営を安定させ、改めて有機農場拡大にむけて計画を見直しました。環 境教育の推進では、集合研修等は実施できませんでしたが、オンライン研修、eラーニングなどで対応しました。自然学校や森林保全活動は場所や期間 を見直し感染症対策を講じたうえで実施しました。

カテゴリー	約束	2020年度進捗状況	自己評価	参照
	2040年までにRE100を達成するために再生可能エネルギーの導入を推進する	本社、食品工場への導入計画を策定した	\triangle	P10
1 低炭素社会の実現	施設の設備改善や省エネルギー活動に努め、事業活動におけるCO2排出を 削減する	スコープ1、2、3合計値の推移 2018年 345,630t-CO2e 2019年367,107t-CO2e 2020年 237,524t-CO2e	0	P19
四次条件云の大坑	農業事業において、4,200t-CO2相当の削減を図る	農業事業によるCO ₂ 削減 2,767t-CO ₂	\triangle	P25
	森林事業において、8,400t-CO2相当の削減を図る	森林事業によるCO ₂ 削減 3,123t-CO ₂	×	_
	サプライチェーンをつうじた温室効果ガス排出量を算定し (スコープ1、2、3)具体的な対策を講じる	2019年度 排出量の第三者検証を実施した	0	P20
	食品工場を中心とした地域において、各地域のリサイクル事業者・生産者と 連携し、食品リサイクルループを構築する	中京センター(食品工場)に続き、東松山センター(食品 工場)で食品リサイクルループを構築した	0	P22
2	食品リサイクルを強化し、外食事業では60%、食品製造事業では100%の 再生利用等実施率を達成する	外食事業 食品製造事業 2018年53.9% 2018年98.8% 2019年46.1% 2019年99.8% 2020年44.8% 2020年100%	外食× 工場◎	P21 P22
循環型社会の実現	食品ロス削減を目指し、外食事業においてはお客様との コミュニケーションを図り、2030年までに50%削減を図る	外食店舗での食べきり運動、持ち帰り運動を展開した	\triangle	P22
12 35561 14 45571 17 critical 3	すべての弁当容器にエコ容器(バイオマスプラスチック含有量10% 以上を使用した容器)を採用する	調理済み弁当容器に加え、冷凍弁当容器を バイオマス10%容器に切り替えた	0	P23
	お客様から使用済み容器を回収し、容器原料に再資源化することで、 海洋プラスチック汚染を防止する	全ての配達地域で容器回収リサイクルの仕組みを構築した	0	P23 P24
	外食事業においてリターナブルビンのリユースを継続する	パートナー企業と連携し継続して取り組んでいる	0	P24
3	2024年までに農業事業で有機農場を400haへ拡大する	有機JAS認証圃場面積 261ha(昨年と同面積)	×	P25/P26
自然共生社会の実現 2 章 15 58771	農業で生産された有機農畜産物をお客様へ提供し、その有機特別 栽培食材比率を60%にする	有機特栽比率 25.2%	×	P16 P25
<u> </u>	2024年までに森林経営計画に基づく森林事業を1,000haへ拡大する	森林事業面積 370ha(昨年と同面積)	×	_
4	全従業員に、ESD(SDGsを達成するための人材教育)を 年7回実施する	オンライン研修、eラーニングを展開し、自部署のSDGs 目標を理解している社員が87%に達した	0	P27 P28
持続可能な社会構築	社会貢献や森林保全活動に取り組むため、ボランティア活動や「ワタミの森づくり」の活動を促す(毎年2,000人以上)	通常のボランティア活動は中止し、感染症対策を講じた公益財団 法人SEFと連携した森林ボランティア活動には38名が参加した	Δ	P27 P28
₩ ∞ ≗ ⊗	小学生を対象として実施している北海道わたみ自然学校や ワタミファーム での環境教育・食育活動に努める	開催場所と日程を調整し「第22回山武わたみ自然学校」 を開催した	0	P27 P28

◎…目標達成、○…前年度より進展があった、△…予定より遅れている、×…進展していない

(!) TOPIX シンポジウム

ワタミはエコ・ファースト推進協議会のメンバーとして、協議会の主要な事業のひと つである「エコ・ファーストシンポジウム」を担当しました。中部大学教授細田衛士氏 をお招きして、「コロナウイルス後の世界と循環経済」をテーマに講演いただくとと もに、4社の取り組みの発表とパネルディスカッションが行われました。

基調講演:

コロナウィルス後の世界と循環経済 中部大学教授 細田衛士氏

事例発表:

株式会社タケエイ、西松建設株式会社、 株式会社ブリヂストン、ライオン株式会社 パネルディスカッション:

三洋商事株式会社、株式会社滋賀銀行、 積水ハウス株式会社、ビックカメラグループ



(!) TOPIX エコとわざコンクールに参加

2020年は、「SDGs |を達成し「持続可能な社会 | の実現のため、「豊 かで美しい地球を未来につなぐために、私たちに何ができるかな」を テーマに創作ことわざを全国の小中学生から募集しました。ワタミ は、食に関連する企業として、食品ロスに問題意識のある作品を表彰 しました。

ワタミが表彰した作品

きゅうしょくを のこさずたべて ママもちきゅうも にっこにこ (小学1年生)

> ユニー株式会社と合同で 表彰状を授与しました



エコ・ファーストの約束

環境大臣 小泉 進次郎 殿 令和元年10月1日

ワタミ株式会社 渡邉美樹

「美しい地球を美しいままに、子どもたちに残していく」

ワタミグループは、事業活動 (外食事業・宅食事業・食品製造事業・農業・林業・エネルギー事業) において 持続可能な社会構築を実現するために、環境法令遵守および環境負荷の低減を図ります。 また、SDGs を本業の中で実践し、エコ・ファーストの約束を達成します。

低炭素社会の実現に向け、省エネ・再生エネルギーの 導入により CO₂排出削減を推進します。







● 2040 年までに RE100 を達成します。

食品製造工場、外食事業店舗、宅食事業営業所、本社事務所で再生可能エネルギーの導入を推進します。

- 施設の設備改善や省エネルギー活動に努め、事業活動における CO₂排出を削減します。
- 有機農業および森林事業を拡大し、CO₂削減効果拡大を図ります。 2024年までに農業事業において CO2削減効果 4,200t-CO2相当(400ha)、 森林事業において削減効果 8,400t-CO₂相当 (1000ha) を達成します。
- サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量を算定し(Scope1.2.3)、具体的な対策を講じます。

循環型社会の実現に向け、廃棄物の発生抑制と 資源循環を推進します。







- 食品リサイクルを適正かつ積極的に推進します。 ■2024年までに食品製造事業(ワタミ手づくり厨房)を中心とした地域において、各地域のリサイクル事業者
- 生産者と連携し、食品リサイクルループを構築します。 ■食品リサイクルを強化し、外食事業では60%、食品製造事業では100%の再生利用等実施率を達成します。
- ■食品ロス削減を目指し、外食事業においてお客様とのコミュニケーションにより食べきりを推進し、
- 2030年までに50%削減を目指します。
- 宅食事業においてエコ容器を使用し、使用済み容器の回収リサイクルによる資源循環を実施します。
- ■2024年までに全ての弁当容器にエコ容器(バイオマスプラスチック含有10%以上を使用した容器)を採用します。 ■お客様から容器を回収し、容器原料に再資源化する「使用済み容器リサイクルループ」を構築し、 海洋プラスチック汚染を防止します。
- リターナブルビンのリユースを継続します。

自然共生社会の実現に向け、生物多様性保全活動を推進します。





- 有機農業に取り組むことで、土壌を保全し生態系を守ります。
- ■2024 年までに農業事業で有機農場 400ha へ拡大します。
- ■環境配慮型農業で生産された有機農畜産物を外食事業でお客様へ提供し、その有機・特別栽培食材比率を60%にします。
- 持続可能な森林事業により、劣化した森林を回復させ、山地生態系の保全を図ります。
- ■2024 年までに森林事業(森林経営計画に基づく)を 1,000ha へ拡大します。

持続可能な社会の構築を目指し、 社内外で SDGs 達成のための教育を推進します。













● 全従業員に、ESD(SDGs を達成するための人材教育)を年7回実施します。 事業活動においては関係する取引先、お客様、地域社会とパートナーシップで SDGs の達成を目指します。 ● 社会貢献や森林保全活動に取り組むため、ボランティア活動や「ワタミの森づくり」の活動を促し、

社会貢献・森林保全活動に取り組む公益団体(NPO法人等)と連携を図りながら、 毎年 2,000 名以上の参加を目指します。

● 小学生を対象として実施している北海道わたみ自然学校やワタミファームでの環境教育・食育活動など、 将来を担う子どもたちに対して ESD を踏まえた環境教育に努めます。

ワタミグループは、上記の取り組みの進捗状況を確認し、その結果について定期的に公表するとともに、環境省へ報告します。

ワタミグループ(海外事業と一部連結子会社を除く)は、エコ・ファーストの約束にSDGsを取り入れ、2019年10月に更新し、グループ内外に公表しまし た。食に関わる企業として、お客様、地域、行政機関、お取引先様、従業員が一緒になって持続可能な社会を目指します。SDGsを経営の中核課題に取り 入れ、より強力に、より迅速に進めていくためにサスティナブル方針を明文化しました。 詳細はP6

ワタミグループの マテリアルバランス











ワタミグループ(海外事業と一部子会社を除く)は、食品製造事業、国内外食事業、海外外食事業、宅食事業、農 業、電力小売事業など、幅広い事業活動を展開しています。環境への影響を、事業活動におけるエネルギーおよ び資源の投入量(インプット)と、その活動に伴って発生した環境負荷物質(アウトプット)で把握し、事業活動 を通じて発生する環境への負荷の削減と適正な管理に努めています。

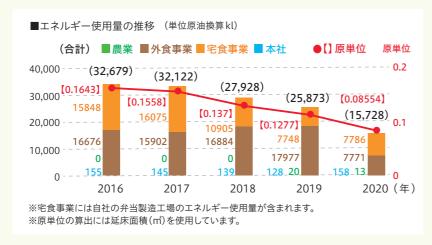
INPUT OUTPUT エネルギーの投入量(電気・ガス等の使用量)、水使用量に対し、発生するCO2排出量、排水量を把握することに加えて、 事業活動で発生する廃棄物の総量とリサイクル量を記載しました。(対象期間2020年4月~2021年3月)



※範囲:すべての間接部門が入居する大鳥居本社ビル

省エネ法への対応

ワタミグループ(海外事業と一部子会社を除く)のエネ ルギー使用量を集計し、定期報告を行っています。 2020年度の熱量総計は609,630GJで、原油換算使 用量は15,728kl、原単位は0.08554kl/㎡でした。ま た前年との比較では、原油換算使用量が60.8%、原単 位が67.0%という結果でした。5年度間の平均原単位 の変化が84.9%であったことから、省エネ法の努力目 標である「5年間平均原単位を年1%以上低減」を達 成しましたが、コロナ禍で事業活動が十分にできてい ないことの影響が大きいため、従業員の省エネ意識が 低下しないよう、全社の理解活動を継続していくこと が課題です。



環境実施計画

エコ・ファーストの約束として設定した項目に加えて、省エネ法、改正フロン法、食品リサイクル法、容器包装リサイクル法の遵守事項について目標管理してい ます。2020年度はコロナの影響を受け、事業活動が十分にできていないことで、ワタミグループ全体の総エネルギー使用量、廃棄物発生量は減少しました。

ワタミグループ環境実施計画と進捗状況(2020年度)

行動 指針	2024年9月末時点で達成すべき目標 (2019年10月からの5か年計画)	2020年度計画	2020年度結果	自己評価	2021年度の行動計画
低炭	サプライチェーンを通じた温室効果 ガス排出量(スコープ1、2、3レベル)を 算定し、具体的な対策を講じる	●排出量算定 ●第三者検証	継続 ●排出量算定 ●第三者検証	0	CDP質問書への回答を 用意する
素社会	RE100を達成するために再生可能 エネルギーの導入推進	再エネ店舗の拡大	コロナ禍により本社、中京センターへの導入に計画変更	Δ	本社、中京センターの RE100を実現する
の実現	省エネ法努力目標の達成	前年度比1%削減	前年度比▲36.2% (コロナ禍の外食店舗の休業・時短営業による)	0	フランチャイズオーナーへの 理解活動を実施する
	フロン類の漏えい量を削減	前年度比削減	前年度比▲75% (R20機器の撤去)	0	フランチャイズオーナーへの 理解活動を実施する
	全工場での食品リサイクルループの構築	関東圏で大臣認定取得	東松山センターの 大臣認定申請中	Δ	新潟地区での食品リサイクル ループを構築する
	全工場での食品リサイクル 100%の達成	100%	100%(前年度比+0.02%)	0	維持継続
循	外食店舗の食品リサイクル率 60%の達成	50%	44.8%(前年度比▲1.3%)	×	食品リサイクル実施店舗を 拡大する(新潟2店舗)
環型社会の	外食店舗の食品ロス50%削減	計量実査店舗の決定	名古屋 3 店舗で 計量を開始	0	食品ロス計量店舗で 数値を把握する
会の実	宅食事業の容器バイオマス化推進	冷凍弁当容器の バイオマス化	冷凍弁当容器の切り替え 完了(バイオマス10%)	0	その他容器の切り換えを 検討する
実現	宅食事業の「使用済み容器の リサイクルループ」の構築	全地域で仕組みを 構築	全配達地域で容器回収 リサイクルの仕組みを構築	0	容器回収率を60%へ 引き上げる
	グループのコピー用紙使用量の削減	前年度比5%削減	前年度比△5%	0	前年度比5%削減
	グループの廃棄物の3R推進	計量実査店舗の拡大	廃棄物排出量 9,031.3 t うちリサイクル量 4,106.8 t	0	計量実査店舗の拡大
	有機農場を400haへ拡大	維持継続	261ha(前年と同面積)	×	有機農場面積の拡大計画見直し
自	外食メニューの有機特別栽培 食材比率を60%達成	加工品を含めて 有機特裁比率向上	25.2%	×	有機特別栽培食材比率の 計画見直し
然共	森林事業を1,000haへ拡大	400ha	370ha(前年と同面積)	×	森林事業の計画見直し
自然共生社会の実現	全従業員に、ESD(SDGsを達成するための人材教育)を実施	従業員SDGs認知度 100%	87% (前年度比+2%)	×	全従業員への理解活動を 継続する
実現	ボランティア活動や「ワタミの森づくり」の 活動を促す(毎年2,000人以上)	全従業員が 年1回活動に参加する	森林ボランティア活動に 38名参加(前年度比▲1,439名) (コロナ対策でイベントの中止による)	×	感染症対策が講じられて いる状況を前提に計画する
	小学生対象として実施している 北海道わたみ自然学校やワタミファーム での環境教育・食育活動の実施	自然学校の継続開催	「第22回山武わたみ自然 学校」の開催。丹波農場で 食育を実施	0	コロナ禍の影響を鑑み、 開催場所と日程を工夫し 継続して開催する

◎…目標達成、 ○…前年度より進展があった、 △…予定より遅れている、×…進展していない

改正フロン法への対応

2015年4月に施行された改正フロン法(フロン類の使用の合理化及び 管理の適正化に関する法律)に基づき、第一種特定製品の管理者とし て、簡易点検および定期点検を計画通り実施しました。2020年度の実 漏えい量は111kg、算定漏えい量は382t-CO2でした。R22などの旧 冷媒使用機器の入れ替えが進み、2019年度に比べ漏えい量が減少し ました。温暖化防止の観点から、フロン類の排出ゼロを目指し、ノンフロ ン機器への入れ替えを計画的に進めていくことが課題です。

■漏えい量の推移							<u>(i</u>	単位t-CO2
		R22	R134a	R404A	R407A	R407C	R410A	合計
2	019年	214	52	619	42	208	390	1,528
2	020年	_	_	337	_	_	47	382

interview



店舗開発本部 建設部 石阪 高洋

建設部では、環境と費用のバランスをみな がら店舗の設備機器を選定しています。 2020年度はコロナの影響で撤退する際、 第一種特定製品の適正な処理に注力しまし た。また、「から揚げの天才」といったテイク アウト業態のフランチャイズでの展開に対 応し、今後はフランチャイズ本部として加盟 している全事業所におけるフロン類の漏え い量報告を行うことになります。その仕組み を構築していくことが課題です。

16

部門ごとのサスティナブル側面と影響および、実施計画 マネジメントシステム ①標準業務·課題····各部署の業務と当該年度の課題(新法令、社会状況の変化などを含む)

ワタミファ

国内外食事業(居酒屋本部

生産

統括

SDGs日本一を目指すために、ISO14001のPDCAの仕組みを活用して、SDGsを達成するサスティナブルマ ネジメントプログラムを運用しています。ワタミでは、社会情勢や気候変動の急激な変化に迅速かつ的確に対応 するために、1999年にISO14001の国際規格認証を取得しました。SDGsを達成するにあたり、「環境」を「サ スティナブル」に置き換え、独自のマネジメントシステムとして確立し、環境、経済、社会の調和を目指します。

推進体制

各事業および子会社の責任者はSDGs推進統括責任者として、サス ティナブルな視点で事業を推進しています。

サスティナブル

2019年に新設されたSDGs推進本部が事務局を担い、各部門のサス ティナブルプログラムの有効性を確認し、毎月トップマネジメントへ報 告しています。SDGsを各事業の業務に融合させ、全部門に組み込むこ

2021年度からは、新たに宅食事業の営業所を範囲に追加し、これで 全ての拠点が範囲に含まれ、全社一丸となり推進する体制へ変更しま

■推進組織 ※2021年6月時点



サスティナブル側面と影響、実施計画

グループの各事業責任者(SDGs推進統括責任者)は、年度の初めに、 自部署の標準業務および業務計画の側面からサスティナブル影響 (SDGs項目に対する変化)を抽出します。さらに、抽出した項目を SDGs17目標に照らし合わせ、著しい影響として評価し、サスティナブ ル実施計画にて目標管理します。進捗は、毎月SDGs会議で経営層に報 告し、推進のための提言を受けて改善、向上する仕組みです。

第三者認証

1999年からISO14001の国際規格認証に 取り組んでいます。2015年の改定版の「将 来世代の人々が自らのニーズを満たす能力 を損なうことなく、現在世代のニーズを満た すために、環境、社会、および経済のバラン スを実現することが不可欠である」という文 言に賛同し、サスティナブルマネジメントシ ステムとして運用していくこととしました。そ の趣旨を理解した、株式会社日本環境認証機 構(JACO)が審査し、登録認証しています。



JACO登録証





審査では経営者層が全員出席

食品工場での審査の様子

! TOPIX 内部監査

2019年のISO14001審査内で、審査員より内部監査プログラムの 脆弱さが見受けられるという指摘を受けました。2020年度は、この 課題に対して内部監査員の力量の強化、また内部監査員と内部監査 員補の養成、内部監査計画書の精緻化を図りました。



15



内部監査員による内部監査の様子(左:外食店舗にて、右:本社にて)

内部監査員の力量強化「ブラッシュアップ講習」

内部監査員の養成「内部監査員養成講座」

複数拠点を同水準で確認するための「内部監査員補養成講座」





内部監査員補養成講座

内部監査員養成講座

②サスティナブル側面···①の業務・課題に関するSDGsの要素(原因)

③サスティナブル影響(有害な影響、有益な影響)…②から牛じるSDGs項目に対する変化(結果) ※②と③は、原因と結果の関係性

4影響評価…SDGs17項目、169ターゲットに関係する項目を決定する。

⑤2020年度 サスティナブル課題および目標·・・サスティナブル方針に整合した課題とそれに対する目標値

⑥実施事項…目標を達成するための取り組み、行動計画 ⑦進捗監視・・・実施事項の進捗 ⑧評価…実施事項に対する進捗状況評価

92021 年度課題および目標…2020 年度の実績を踏まえて、2021 年度の目標を記載

サスティナブル影響評価(目標を抽出したプロセス)

①標準業務•課題	1反あたりの収穫量を向上させる(反収)		有機農業に取り組み反収を向上させることで			
②サスティナブル側面	畑に植えた植物を土壌にすき込む緑肥の利用		土壌を保全	し生態系を守る		
③サスティナブル影響 ●土壌に有機成分を供給 ●土壌中への窒素の固定			⑥実施事項	反収を向上させる 目標値:950kg		
	●団粒構造の形成を促進 ※1		⑦進捗監視	実績:1,264kg		
④影響評価●持続可能で地球環境配慮型農業を推進する●土壌によるCO2の吸収効果		,	⑧評価	達成…目標に対して133%		
	2 **** 6 ******* 13 ******* 15 ******* 15 ******* 15 ******* 15 ******* 15 ******* 15 ******* 15 ******** 15 **********		92021年度 課題および目標	反収目標…1,729kg(きく芋のみ1,870kg)		

※1:団粒構造:個々の土壌粒子が団粒を作っており、ばらばらに存在している単粒構造 に比べ、通気・通水性・保水性もすぐれ、土壌生物の活動や植物生育に良好

有限会社ワタミファーム



農業は、有機農業を推進しており、事業そのものが環境保全に貢献しています。反収(1.000㎡当りの収穫量)の向上を目標として掲げ、土づ くりにこだわっています。有機資源の循環を行うことで未来に命をつなぐ取り組みを目指しています。事業の基盤をしっかりと作り上げ、ワタ ミの環境活動を広げていきます。

⑤2020年度 サスティナブル課題および目標

サスティナブル影響評価(目標を抽出したプロセス)

		O 1.2		
①標準業務•課題	外食事業のメニューを通して、ワタミの6次産業モデルの促進		2022年まで	
②サスティナブル側面	オーガニック食材の使用		ワタミファー	
③サスティナブル影響	有機農業の拡大(雇用・適正な土地管理)生物多様性の促進全の吸収固定を促進		⑥実施事項	
④影響評価 持続可能な農薬を使わない安全・安心な作物を			⑦進捗監視	
	消費者に届ける 2::::: 15:::::::::: 15::::::::: 15::::::::		⑧評価	
			@2024 F#	

⑤2020年度 サスティナブル課題および目標

でに土壌汚染保護、生物の共存のために ーム(有機・特別栽培)の食材比率を60%にする

⑥実施事項	外食メニューの有機・特別栽培食材の比率を向上させる。目標34%
⑦進捗監視	有機野菜の導入計画 ■4月~玉ねぎ ■5月~ロメインレタス ■6月~キャベツ・もやし ■11月~さつま芋
⑧評価	9・11・12・1月 達成… 通年では未達

92021年度 有機・特別栽培食材比率 48%

担当者メッセージ

居洒屋本部 業態企画部 大西 浩史



居酒屋本部業態企画として、有機・特別栽培食材比率を重点課題として特定し、2020年度は、目標34%に対して25.2%の結果となりまし た。課題は、季節や天候に左右されやすい状況にあるため、年間を通じて販売を継続することです。2021年度は、居酒屋を取り巻く環境(コ ロナ禍)が変化する中ですが、お客様にお薦めしたくなるような商品を提案して、有機・特別栽培食材比率を向上していきます。

サステイテノル影響評価(日標を拙出したノロセス)			
①標準業務・課題	食品工場での廃棄物管理		
②サスティナブル側面	食品廃棄物の排出		
③サスティナブル影響	●廃棄物焼却処分に伴うCO₂の排出抑制 ●汁きり不足による水質汚染の防止		
④影響評価	食品廃棄物をゼロにする		

①標準業務•課題	食品工場での廃棄物管理
②サスティナブル側面	食品廃棄物の排出
③サスティナブル影響	●廃棄物焼却処分に伴うCO2の排出抑制 ●汁きり不足による水質汚染の防止
④影響評価	食品廃棄物をゼロにする ^{12 :==} ^{○○}

⑤2020年度 サスティナブル課題および目標

食品再生資源(食品廃棄物)の発生を抑制する

	⑥実施事項	2017年度比 食品再生資源 67% 削減
	⑦進捗監視	●品目別の傾向分析 ●重点対策品目の選別●レシピの見直し ●啓発活動
	⑧評価	達成…削減目標47kg/万食に対し、実績削減66kg/万食

92021年度 食品再生資源(食品廃棄物)の発生を抑制する 課題および目標 (60kg/万食)

サスティナブル影響評価(目標を抽出したプロセス)

①標準業務・課題	食品工場での原価低減
②サスティナブル側面	エネルギー管理
③サスティナブル影響	●電気使用量削減による CO ₂ 削減 ●地球温暖化防止
④影響評価	省エネによる地球温暖化防止、さらに再エネ電力化を 目指す

担当者メッセージ 牛産統括部 大矢 悠策

「2030年に食品廃棄物の発生量を0にする」。 現時点では夢のような話かもしれません。今の 当たり前と思っている考えに捉われず、どうすれ ば2030年に食品廃棄物の発生量を0にできる かを食品工場全体で取り組み、目標を達成させ

ていきます。各食品工場での課題や進捗が異なるために、同じやり方で進めることが 困難な場合もありますが、月に1度生産統括部でのミーティング時にSDGs活動の共 有や標準化を進めていき、目標を達成できる環境に整えて生産統括部全体で取り組

⑤2020年度 サスティナブル課題および目標

食品工場で使用する電力の RE100 実現

	⑥実施事項	2018年度比 電気使用量85.5%
	⑦進捗監視	●照明のLED化 ●未稼働時の空調管理 ●啓発活動
	⑧評価	達成…2018年度比累計83%の使用量

92021年度 食品工場で使用する電力を2018年度比52%にし、 課題および目標 RE100を実現する



サスティナブル影響評価(目標を抽出したプロセス)

①標準業務・課題 外食事業での包材備品の調達 ②サスティナブル側面 環境配慮型包材の使用 ③サスティナブル影響 ●海洋プラスチック汚染の防止 ●製品の製造から焼却に伴うCO2抑制 4)影響評価

容器包装を選ぶ際に、地球環境に配慮する



①標準業務・課題	食品工場内での包材備品の調達
②サスティナブル側面	環境配慮型包材備品の使用
③サスティナブル影響	●海洋プラスチック汚染の防止製品の製造・焼却に伴う CO₂抑制
④影響評価	容器包装を選ぶ際に、地球環境に配慮する ***********************************

サスティナブル影響評価(目標を抽出したプロセス)

①標準業務・課題	食品工場内での包材備品の調達	
②サスティナブル側面	環境配慮型包材備品の使用	
③サスティナブル影響	●海洋プラスチック汚染の防止 ●製品の製造・焼却に伴うCO2抑制	
④影響評価	容器包装を選ぶ際に、地球環境に配慮する 1	

⑤2020年度 サスティナブル課題および目標

2030年までに外食店舗で使用するプラスチック製の容器・備品・ 食器類を環境配慮型に切り替え、プラスチック使用量を30%削減する

⑥実施事項	店舗で使用するプラスチック製の容器・備品・食器類を 環境配慮型に切り替え、2%削減	
⑦進捗監視	●バイオマスプラ25%レジ袋導入 ●から揚げの天才包材の見直し	
⑧評価	達成…プラスチック削減量7,755kg(2018年度比2.1%削減)	

⑨2021年度 外食店舗で使用するプラスチック製ワンウェイプラを 課題および目標 環境配慮型に切り替え、プラスチック使用量を5%削減する

⑤2020年度 サスティナブル課題および目標

2030年までに工場で使用するプラスチック包材の使用量を削減したり、 環境配慮型プラスチックに変え、プラスチック使用量を50%削減する

⑥実施事項	工場で使用するプラスチック使用量を削減 または環境配慮型に変更してプラスチック使用量を5%削減
⑦進捗監視	●「お料理キット」で使用するプラ袋のパイオマスプラ化●ばんじゅう用内袋の環境配慮型へ切り替え
⑧評価	達成…プラスチック削減量2,275kg(2018年度比8.65%削減)

92021年度 工場で使用するプラスチック包材の使用量を削減したり、環境 課題および目標 配慮型プラスチックに変え、プラスチック使用量を10%削減する

担当者メッセージ 仕入開発本部 天笠 翔太



仕入開発本部ではプ ラスチック使用量の 削減に取り組んでい ます。特に大きな行動

としては今まで使っていたプラスチック包材の薄肉化した商 品開発の推進です。今後も商品の開発をお取引先様と一緒に 取り組み共にSDGsを進める事で経済的にも社会的にもより 良い関係へと成長出来ればと思っております。







サスティナブル影響評価(目標を抽出したプロセス) ①標準業務・課題 外食店舗の運営・酒類の提供

②サスティナブル側面	管理帳票等で使用するコピー用紙の使用
③サスティナブル影響	焼却処分に伴うCO₂排出の抑制地球温暖化防止
④影響評価	紙を使わない業務の推進により廃棄物の抑制と CO2の発生抑制を目指す。
	12 CO 13 SHE. 15 SHE

⑤2020年度 サスティナブル課題および目標 外食店舗で使用する紙の削減

⑥実施事項	コピー用紙の使用量、前年度比5%削減	
⑦進捗監視	店舗での印刷物の削減(紙管理→IT化)	
⑧評価	達成…約35%削減 発注数:8107ケース→5272ケース	

サスティナブル影響評価(目標を抽出したプロセス)

①標準業務・課題	店舗運営・酒類の提供
②サスティナブル側面	食べ残し、生ごみの発生
③サスティナブル影響	廃棄物焼却処分に伴うCO2排出の抑制
④影響評価	食品ロス削減と食品廃棄物のリサイクルを推進する

⑤2020年度 サスティナブル課題および目標

2024年までに各地域のリサイクル業者と連携し、 食品リサイクルループへの店舗拡大

⑥実施事項	店舗における廃棄量測定実施、および改善計画書の作成と実施・検証
⑦進捗監視	●ごみ計量機の導入 ●食品リサイクルループの検討
⑧評価	達成…名古屋地区での食品リサイクルループ運用(5店舗)

紙・食品ロス目標を店舗のサスティナブルプログラムにて 課題および目標 運用監視。QSCチェックでのSDGs項目の全店平均90点 目標に従業員教育を行う

担当者メッセーシ 国内外食 事業企画部



国内外食事業では、紙・電気・食品ロスの3つの取り組みを行なっています。システムによるワークフローの導入で紙の使用を削減しました。電気に ついてはもったいない意識で1店舗1店舗の店長たちが取り組み、削減に大きく貢献しました。2021年はコロナ禍でお客様の集客が厳しくなり、店 舗当たりの食材の使用量も少なくなっています。休業に伴う、過剰在庫や過剰準備で食品ロスが大きく出ることを予測して、まずは食品ロスを見え る化していきます。現在の厳しい時にワタミだからこそ環境への取り組みにこだわり、「できることから」順番に、「従業員全員」で取り組みます。

西澤 徹

サスティナブル影響評価(目標を抽出したプロセス)

①標準業務・課題	店舗等の改装や撤退管理
②サスティナブル側面	冷媒機器の入替や廃棄
③サスティナブル影響	●温室効果が大きいフロンガス管理●地球温暖化防止
4影響評価	フロンガスを管理し、地球温暖化を防止する

⑤2020年度 サスティナブル課題および目標

	ノル ノエ	中へのプログ層でいまり10年
	⑥実施事項	●機器リストの作成 ●運用・簡易点検の実施 ●漏えい量報告
>	⑦進捗監視	●古い冷媒機器の入替計画策定 ●定期点検計画策定
	⑧評価	達成…漏えい量2019年1,528t-CO2

92021年度 フロン法令の遵守と国の方針に沿ったフロンの 課題および目標 適正管理(FCオーナー店舗へ範囲拡大)

担当者メッセージ 店舗開発本部 建設部 石阪 高洋



店舗開発本部(主に環境影響度合いが高い建設部)では、冷蔵庫や空調といった、フロンガスを使用している機器を正しく管理する事を目標とし ております。(グループで2万台以上の機器があり、これに一つずつ番号を付けております!)国が定める法律を守る為の活動ではありますが、将 来的に炭素税の導入など、店舗の皆さまに見えづらい費用を抑える機会に役立つと信じて、活動しております。「冷蔵庫を追加したい・捨てたい」と 思ったら、上長と建設部に連絡をお願いします!

サスティナブル影響評価(目標を抽出したプロセス)

①標準業務・課題	お弁当のお届け
②サスティナブル側面	お客様の家までお届けすることでの地域との連携
③サスティナブル影響	●見守り協定締結増加に伴う高齢者の見守りの強化 ●事業拡大による健康的な生活と福祉の促進
④影響評価	高齢者の健康と安全を守る

サスティナブル影響評価(目標を抽出したプロセス)

①標準業務・課題	お弁当のお届け
②サスティナブル側面	使用済み弁当容器
③サスティナブル影響	海洋プラスチック汚染問題の防止廃棄に伴うCO2排出の削減地球温暖化防止
④影響評価	使用済み容器を回収リサイクルすることにより、 地域の廃棄物を削減し、資源循環を推進する

⑤2020年度 サスティナブル課題および目標

新規顧客層を拡大し、1人でも多くのお客さまにまごころを込めた 食の宅配サービスを通じて、こころと身体の健康を増進することで、 より住みやすいまちづくりを目指す

⑥実施事項	見守り協定自治体数 220 市町村
⑦進捗監視	自治体への提案
⑧評価 達成 …221市町村(2021年3月末)	

⑤2020年度 サスティナブル課題および目標

2021年度末までに自社回収リサイクルループの全エリア展開

⑥実施事項	●容器回収実施拠点の拡大(全お届けエリア)②容器回収率の向上(目標60%)を図る
⑦進捗監視	●リサイクルに関する自治体との協議 ②営業所・お客様への周知
⑧評価	●達成…2021年3月をもち、全てのお届けエリアで展開●未達成…回収率全国平均52%



容器回収リサイクル率の向上 (2020年度比10%向上60%目標)

担当者メッセージ 字食事業 党業企画部 門前 敏也

事

人材開発本部

ランド広報

室

ワタミエナジ



宅食事業では、宅食事業の日々の活動そのものがSDGsの目標のうちの11「住み続けられるまちづくりを」につながっていると考えています。それ は、栄養に配慮したお弁当を食べていただくことでお客様の健康や、お弁当をお届けするまごころスタッフとお客様とのふれあい、ご自宅までお届 けする特性を生かした自治体との見守りサービスの協定などの取り組みがあるからです。これからも一人でも多くのお客様にまごころを込めた食 の宅配サービスを通じて住みやすい街づくりに貢献できるように行動します。

サスティナブル影響評価(目標を抽出したプロセス)

①標準業務・課題	本社ビル管理		2030年までに、本社 「廃棄物焼却による(
②サスティナブル側面	事務用品管理(コピー用紙)			
③サスティナブル影響	焼却処分に伴うCO2排出の抑制地球温暖化防止		⑥実施事項	本社での組
④影響評価 従業員教育を実施し、紙を使わない業務の推進により		⑦進捗監視	複合機の部署別の	
廃棄物の抑制とCO ₂ の発生抑制を本社全体で目指す			⑧評価	達成⋯実緣
	12 3111 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15		92021年度	ワタミ

⑤2020年度 サスティナブル課題および目標

の紙使用量の前年度比5%削減し、 CO2削減」に貢献する

•	⑥実施事項	本社での紙使用量(前年度比 5%削減)
	⑦進捗監視	・複合機の設定変更●従業員への周知活動●部署別の印刷用紙の把握、注意喚起
	⑧評価	達成…実績190,016枚 前年度比98.1%

ミグループ全体で、2030年度までに、 課題および目標 業務で使用する紙をゼロにする

担当者メッセージ 人材開発本部 総務部 中村 七重



本社での環境負荷低減活動について、まず本社従業員が取り組みやすい課題を考えました。コロナ禍で、在宅の従業員も増え、業務のやりとりがデー タ中心になる中、「印刷は本当に必要であるのか?」今一度考えてもらえるよう、複合機の出力画面を工夫したり、紙の印刷価格や、昨年との比較枚数 をお知らせしました。また会議体では、基本的には紙資料はなくし、データにて確認するということも従業員に理解いただき、削減を推進しました。今 後は、本社だけでなく、丁場、営業所、店舗など全社で紙使用枚数を削減するため、各事業部と協力し推進していきます。

サスティナブル影響評価(目標を抽出したプロセス)

①標準業務・課題	広報活動
②サスティナブル側面	最新情報をステークホルダーへ発信
③サスティナブル影響	ブランド価値向上
④影響評価	情報発信により持続可能なライフスタイルに貢献する ことで気候変動防止に貢献する
	12

⑤2020年度 サスティナブル課題および目標

グループの環境・社会貢献活動を社内外に伝え、取り組みの認知向上 社会的評価の向上を図る

⑥実施事項	年間50本以上のリリース発信
⑦進捗監視	リリース発信
⑧評価	達成…106本

92021年度 年間100本以上のリリースを発信、うち50本はSDGsの 課題および目標取り組みについての内容にする

担当者メッセージ ブランド広報室 杉山 康之

広報では、「SDGs=ワタミ」の認知が広がっている状態にすることを目標に、ワタミグループの活動を年間106本のリリースをつうじて発信しました。 様々なメディアでワタミの環境・社会貢献活動が取り上げられるなど、コロナ禍の厳しい状況でも、生産者支援などお取引先様との協業や様々な手を 打ち、前に進んでいることを伝えることができたと考えています。2021年度も、「SDGs日本一」実現に向けて、ワタミグループの活動を社内外にしっか りと伝えられるよう情報を発信していきます。

サスティナブル影響評価(目標を抽出したプロセス)

①標準業務・課題	エネルギー問題への社員啓発
②サスティナブル側面	●教育 ●でんきの切替促進
③サスティナブル影響	●地球温暖化の抑制●再エネ電力普及に伴うCO₂削減
④影響評価	事業を通して再生可能エネルギーについて 啓発活動を行う。

⑤2020年度 サスティナブル課題および目標

エネルギー問題の啓発をする 再エネを含む「ワタミのでんき」を普及するため、グループ社員 まごころスタッフ(宅食事業)への切替促進する

⑥実施事項	●社員切替え200kW相当 ②まごころスタッフの認知度90%
⑦進捗監視	●説明会の実施●普及活動
⑧評価	●達成…社員切替206kW相当●達成…まごころスタッフ99%周知 (502/507営業所)

92021年度 課題および目標

「再エネ100プラン」を広げることで、再エネ電力の 普及に貢献する

担当者メッセージ

山﨑 輝



2020年度は、社員とまごころスタッフへの「ワタミのでんき」の普及と認知度向上に取り組みました。途中、予定通りに進まないこともあり、 計画修正をしました。日々、PDCAを回し続けなければならないことを実感した年度でした。2021年度は、再エネ電力を内部・外部に広げて いくこと、本社・中京センターのRE100達成を目標としています。PDCAを日々回して必ず達成します。

店舗開発本部

脱炭素社会の構築



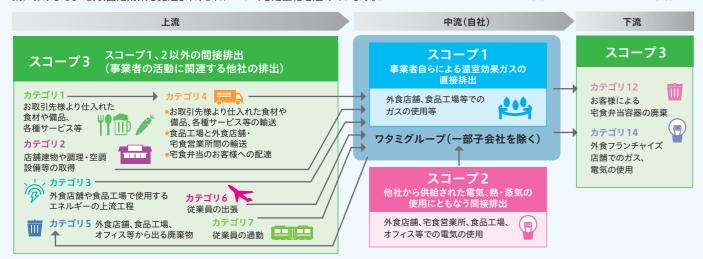




ワタミグループは、「脱炭素社会 |を目指しています。それは、温室効果ガスの排出自体を抑制するだけでなく、 排出された二酸化炭素を吸収するなどして、差し引きで実質的にゼロを達成しようという考え方です。地球温 暖化対策の国際的な枠組み「パリ協定」では、世界の122の国と地域が参加し、温室効果ガスの排出量を今世 紀後半に実質ゼロにすることが目標に掲げられ、2050年までの実質ゼロを目指しています。脱炭素社会の構 築に向けて、段階的かつ具体的な対策を講じていきます。

サプライチェーン全体の温室効果ガス排出量

ワタミグループ(一部連結子会社を除く)は、国内外食事業をはじめ、海外外食事業、お弁当宅配の宅食事業、外食や宅食事業を支える仕入・物流・食品工 場部門、農業、電力小売事業などの事業を行っていますが、さまざまな資源やエネルギーを使用することで、環境に影響を与えています。その環境負荷は、 直接管理するものだけでなく、原材料の調達から商品の製造、物流、販売、廃棄、リサイクルに至るまでのサプライチェーンの各段階におよびます。各段階 における環境影響を把握し、低減または相殺する方法を検討していくための基礎となるのが、温室効果ガスのサプライチェーン排出量算定です。2020年 度は、コロナ禍の影響を受け、外食事業では営業自粛要請に対応したことで、エネルギー使用量が大幅に減少しています。一方で、ワタミファームの有機農 業におけるCO2吸収固定効果も見込まれ、これについても定量化を進めています。(算定から除いた会社:WATAMI USA GUAMU、(有)当麻グリーンライス、ワタミカミチク(株))



サプライチェーン 排出量とは?

事業者自らの排出だけでなく、事業活動に関係するあらゆる排出を合計した排出量を指 します。つまり、原材料調達・製造・物流・販売・廃棄など一連の流れ全体から発生する温 室効果ガス排出量のことを指します。

サプライチェーン排出量=



温室効果ガス排出量まとめ(温室効果ガス:二酸化炭素、メタン、フロンガスなど)

2020年度排出量は、2021年9月末時点暫定値 排出量[t-CO2e]

	スコープ/カテゴリ	ワタミグループでの対象活動	2018年度 排出量	2019年度 排出量	2020年度 排出量
サプライチェーン	ン排出量				
スコープ1	■ 自社での温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼等に伴う)	外食店舗、食品工場等でのガスの使用等	14,481	15,852	7,875 ※
スコープ2	■ 他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出	外食店舗、宅食営業所、食品工場、本社等での電気の使用	38,386	42,000	26,283 *
カテゴリ1	購入した製品・サービス	お取引先様より仕入れた食材や備品、各種サービス等	254,310	248,222	145,140 ×
カテゴリ2	■ 資本財(設備・建物等の製造・建設に伴う)	店舗建物や調理・空調設備等の取得	22	16,454	21,951 *
カテゴリ3	■ スコープ1,2 に含まれない燃料及びエネルギー関連活動 (他者から調達している電気等の発電等に必要な燃料の調達に伴う)	外食店舗や食品工場で使用するエネルギーの上流工程 (燃料の採掘や精製等)	5,819	8,365	4,543 %
カテゴリ4	■ 輸送、配送(上流:原材料・仕入商品に係る製品が 自社に届くまでの物流等)	・お取引先様より仕入れた食材や備品、各種サービス等の輸送 ・食品工場と外食店舗・宅食営業所間の輸送 ・宅食弁当のお客様への配達	21,073	17,021	11,597 ¾
カテゴリ5	■ 事業から出る廃棄物	外食店舗、食品工場、本社等から出る廃棄物	3,912	7,998	7,885 🤋
カテゴリ6	● 従業員の出張	従業員の出張	222	219	191 🤋
カテゴリ7	従業員の通勤	従業員の通勤	3,168	2,987	1,573 🤋
カテゴリ12	■ 販売した製品の廃棄(使用者による製品の廃棄時の処理に伴う)	お客様による宅食弁当容器および外食テイクアウト容器の廃棄	93	2,972	3,347 %
カテゴリ14	フランチャイズ	外食フランチャイズ店舗でのガス、電気の使用	4,145	5,018	7,140 *
スコープ3	スコープ1,2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)		292,763	309,256	203,366
スコープ 1.2.	3 合計		345 630	367 107	237 524

- ●スコープ1,2はワタミグループ(一部連結子会社を除く)、スコープ3はワタミ単体を対象範囲として算定。今後さらに算定範
- ●排出原単位には環境省「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース」。
- ループ vとつ でという (※1) スコープ 1: 主に外食店舗、食品工場等でのガスの使用量の減少による ※2 スコープ 2: 主に外食店舗、食品工場等での 電力の使用量の減少による ※3カテゴリ1:仕入量の減少による、昨年度から有機農畜産物の詳細算定を実施 ※4カテゴリ2:外食店舗の新規オープンによる設備投資の増加による ※5カテゴリ3:主に外食店舗、食品工場等でのガス・電力の使 用量の減少による ※6 カテゴリ4:主に仕入量の減少、食品工場から外食店舗への輸送量の減少による ※7 カテゴリ5:主 に食品工場の集約化による ※8 カテゴリ6.7:従業員数の減少による ※9 カテゴリ12:主に弁当販売量の増加、ワンウェイ 容器での提供拡大による。2019年度からバイオマスプラスチック含有量、ワンウェイ容器の回収リサイクルシステムも数値に 反映 ※10 カテゴリ14:外食フランチャイズ店舗の増加による



第三者検証の実施

サプライチェーンの上下流(原料調達から製造、物流、販売、廃棄等)に渡る事業活動に伴う温室効果ガス(以下 GHG) 排出量について、国際的な GHG 算定・報告基準「GHG プロトコル」に準拠し、2018 年度より「スコープ1,2,3」の算定を 開始しました。第三者検証による透明性・信頼性の高い情報開示は必須であると考え、この度「スコープ 1,2」についてソ コテック・サーティフィケーション・ジャパン株式会社による第三者検証を受け、保証書を取得しました。



第三者検証保証書

算定結果に基づく算定機関からコメント

算定機関:株式会社ウェイストボックス ※日本で唯一のCDP気候変動コンサルティングパートナー企業

る企業が増えてきました。ダイエットにおける体重管理と同様、脱炭 素でもまずは現在の排出状況を把握することが必要です。ワタミは 2019年からこれに取り組み、毎年の進捗評価を継続して行ってお り、業界をリードしていると言えます。ワタミの排出で最も大きいのが カテゴリ1(購入した製品・サービスに伴う排出)です。対策としては、 購入量を減らすことは難しいので、購入する原材料等を低炭素なも のに切り替えるということがあります。有機野菜やバイオマスプラス チックの利用はこれに該当し、評価できます。これらの利用拡大によ る効果を排出量数値に反映し、進捗管理を行っていることも先進的

脱炭素への取り組みの第一歩として、スコープ1,2,3排出量を把握すであると考えます。さらには、サプライヤーと協働で購入品の生産時 の脱炭素化を進めていくことが期待されます。世界の脱炭素化に向 けては、まずは最大限の排出削減が欠かせませんが、排出を0にする ことはできず、CO2の除去・貯留の拡大も両輪で進める必要がありま す。ワタミの有機農業による土壌炭素貯留量や森林事業によるCO2 吸収量の拡大はこれに貢献するものと言えます。

株式会社ウェイストボックス 代表取締役 給木 修一郎 様



気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)への取り組みを開始

「サスティナブル方針」の基本理念に基づき、グループの重点課題(マテリア リティ)を決定するうえで、年々激化する気候変動問題についても非常に重 要な項目の一つとしてとらえています。「気候関連財務情報開示タスクフォー ス(TCFD)」※1の最終報告書を受け、気候変動関連リスクおよび機会に関 する情報開示の準備を始めています。

※1 TCFDとは、G20の要請を受け、金融安定理事会(各国の金融関連省庁および中央 銀行からなる国際金融に関する監督業務を行う機関)により、気候関連の情報開示およ び金融機関の対応をどのように行うかを検討するために設立された「気候関連財務情 報開示タスクフォース (Task Force on Climate-related Financial Disclosures)」を 指します。

■ワタミグループ進捗状況		
2018年	・RE100 に加盟	
2019年	・推進体制の整備(SDGs推進本部、SDGs会議) ・スコープ算定開始(国内事業)	
2020年	・スコープ算定範囲拡大(海外事業) ・スコープ算定における第三者保証取得	
2021年	・気候変動を起因とした自然災害リスクに関する調査の実施 ・気候変動に対応するための戦略及び指標と目標の設定	
2022年 以隆	・TCFDのフレームに基づく情報開示 (ガバナンス・戦略・リスク管理・指標と目標)	



取締役 CFO 渡邉 将也

2022年4月からの東証の市場変更に伴い、ワタミグループはプライム市場へ移行となります。プライム市場に上場をする 企業は、気候変動に関わる自社へのリスクおよび収益機会について、気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)、ま たはそれと同等の枠組みに基づく開示水準の情報量および質の充実化を求められることになり、企業としてますます社 会や投資家に対して、地球環境に配慮した事業運営がいかになされているかを示す必要があります。昨今ESG投資が大 きなトレンドとなっているように、これからは環境に配慮することが安定したファイナンスにつながり、また地球に配慮し た事業活動に対する消費者からの共鳴がさらなる事業拡大を促すような社会になっていくと想定されるなか、ワタミグ ループとしてより一層環境への取り組みを強化し、SDGs日本一の企業を目指していくことは、ワタミグループの事業拡大 につながり、ひいては社会に対する影響力も大きくなっていくと思います。「美しい地球を美しいままに、子どもたちに残し ていく」ために、グループ一丸となって頑張っていきましょう。

再生可能エネルギーを普及させ、脱炭素社会へ ワタミエナジー(株)

ワタミエナジーは、ワタミグループの環境活動を推進する役割とし て、森林づくり活動の立上げや省エネ活動の推進、風車や太陽光発 電、さらにバイオマス発電の再生可能エネルギー発電事業などに 取り組んできました。気候変動対策が待ったなしの状況で、グルー プを超えて再生可能エネルギーを普及させることの必要性を感じ、 小売電気事業により「ワタミのでんき」も供給しています。再生可能 エネルギー100%の電気メニュー「再エネ100プラン」の供給も 徐々に広がってきました。さらに、地域電力会社の支援も、今では8 社にまで拡大しています。今後は、売り上げ1%を毎年、再生可能工 ネルギーを増やす取り組みに投資していく計画です。



ルーフソーラーパネル

2020年度の発電総量 **6,416** 千kWh

供給量 **85.917** 千kWh

お客様がワタミエナジーの雷気に変えることで 未来の子 どもたちの笑顔につながるという事を多くの方に共感し ていただく事が私たちの使命です。どんな電気を使うの か、お客様の選択で未来を変えることができることをお伝 えし、まずは当事者意識を持っていただくことを大切にし ワタミエナジー ています。



鎮日 美和





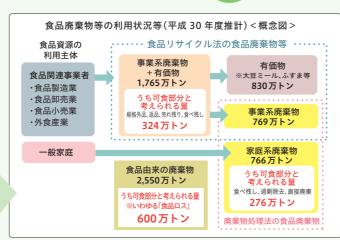


食糧自給率が40%にも満たない日本では、食料の多くを輸入に頼っているにも関わらず、たくさんの食品を廃 棄しています。食を提供するワタミでは、まず食品廃棄を削減すること、そして排出してしまった食品廃棄物は 資源循環に努め、SDGsの12「つくる責任つかう責任」に貢献します。

ワタミは食品関連事業者として、食品リサイクル法・食品ロス削減の推 進に関する法律を遵守し、食品リサイクル推進、食品ロス削減に努めて います。エコ・ファーストの約束では、循環型社会の実現に向け、廃棄物 の発生抑制と資源循環の推進を目標に定め、外食事業ではリサイクル 率の向上、食品工場では、すべての工場での食品リサイクルループ構築 を推進しています。外食事業で排出される食品廃棄物は、厨房から排出 される調理くずやお客様の食べ残したものがありますが、一店舗あた りの排出量が少ないので、リサイクルすることが困難でした。外食店舗 ごとのリサイクル率を向上させるために、他の外食事業者と協働でリサ イクルループを構築しました。現在は、名古屋市周辺での運用ですが、 2021年度は新潟エリアでのリサイクルループ構築を予定しています。

農林水産省の統計では、平成30年の食品由来の廃棄物は2.531万トンで、 前年度より20万トン減少しています。また、そのうち食べられるのに捨てられ た食品ロスは600万トン(前年比12万トン削減)でした。全体的には減少傾 向にありますが、日本人の一人あたりの食品ロス量は1年で約47kg、一人当 たり毎日ごはん茶碗1杯分のごはんを捨てているのと同じ量になります。





外食店舗での取り組み

すべてのごみを計量し、食品廃棄物は飼料化へ

外食店舗から排出される食品廃棄物のうち、約60%がお客様の食べ残しです。お客様のご利用状況により、廃棄物量は日に よって大きく異なります。そこで、ワタミでは、日々店舗でどれくらいの廃棄物が出ているのか、すべてのごみを計量すること を始めました。現在、愛知県の「ミライザカ」名駅4丁目店・「三代目鳥メロ」名駅4丁目店・「焼肉の和民」名駅店で計量機を 導入し、リアルタイムでごみの重さや品目を本社・店舗も把握できる仕組みを運用しています。ごみの計量を従業員が行うこ とで、原因となる調理ミスや発注過多など数値で知ることができ、食品ロス削減行動に繋がります。



バットにごみを入れて計量

食品リサイクルループ

名古屋市の5店舗(「ミライザカ」名駅4丁目店、「三代目鳥メロ」名駅 4丁目店、「焼肉の和民」名駅店、「三代目鳥メロ」塩釜口駅前、「三代目 鳥メロ」今池店)では、食品廃棄物を鶏の飼料化にする食品リサイク ルループに取り組んでいます。2019年からワタミと同業の外食企業 4 社が協働のリサイクルループで、名古屋市内の38店舗が参加して います。各店舗から排出した食品循環資源(食品廃棄物)を回収し、鶏 の飼料化し、その鶏の卵を仕入れ、料理として提供しています。





公益財団法人 Save Earth Foundation と 外食4社連携による協働リサイクルループの 取り組みが第8回食品産業「もったいない大賞」 農林水産省食料産業局長賞を受賞。



interview

店舗では日々たくさんのごみを排出していますが、従業員自身が毎日ごみの計量を行うことで、自然と廃棄物の量を減らそうと いう意識向上につながっています。「焼肉の和民」は食べ放題のお客様が多く、食品ロスが発生しやすい業態ですが、お客様に食 べ切りのご協力の呼び掛けや、仕入れや仕込みの量を毎日細かく調整し、食品口スの抑制に努めています。私自身、学生時代に 環境問題について学び、ワタミに入社したのでこういった形で、食品リサイクルに関われることに大きなやりがいを感じています。 **店長 武笠誠司**





食口ス削減 お客様にも ご協力 いただきました

お客様の食べ残しを削減するために、ワタミグループでは、食べきれない 料理をお持ち帰りいただく「おみやパック」を用意し、お客様にお声掛けし ています。また焼肉業態「かみむら牧場」では、食べ放題にて食べ残しゼロ のお客様を対象に、お菓子のすくい取りキャンペーンを行い、食べ残し削 減に効果がありました。



タッチパネルで持ち帰り記



お菓子のすくい取りキャンペーン

ワタミの食品リサイクル実績

ワタミグループでは宅食の食品工場と、外食店舗から食品廃棄物を排出していますが、工場から排出する食品循環資源は飼料や堆肥に再生利用してい ます。外食店舗から排出される食品廃棄物は、食べ残しや油分・塩分が含まれ、再生利用が難しいので、排出削減に努めています。

■食品リサイクル率推移(外食店舗・食品工場)



外食店舗	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
食品廃棄物等の発生量(t)	4,713	4,224	2,887	2,973	1,154
食品循環資源の再生利用の実施量(t)	1,780	739	550	586	263
食品循環資源の再生利用等の実施率(%)	37.8	23.6	53.9	46.1	44.8

食品工場 ※ワタミ手づくり厨房	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
食品廃棄物等の発生量(t)	2,160	2,088	1,550	845	548
食品循環資源の再生利用の実施量(t)	2,139	2,080	1,521	840	548
食品循環資源の再生利用等の実施率(%)	99.0	99.7	98.8	99.8	100

外食店舗+食品工場	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
食品廃棄物等の発生量(t)	6,873	6,312	4,437	3,818	1,702
食品循環資源の再生利用の実施量(t)	3,919	2,819	2,071	1,426	811
食品循環資源の再生利用等の実施率(%)	57.0	49.3	67.6	63.1	76.5

※食品循環資源の再生利用等の実施率(%)は、当該年度の単純実施率に発生抑制を加味した値

宅食事業(食品工場)での取り組み

ごみを排出しない、発生抑制活動を各食品工場で促進

宅食事業では、お弁当を製造する上で発生する廃棄物の発生抑制に取 り組んでいます。取り組みにより、2020年度は2017年度比66kg/1万 食削減することができました。2030年には、食品廃棄物の発生量を1 万食あたり Okg にするために、日々改善活動を行っています。

取り組み事例

- ●廃棄量の分析を行い、不定数量の原料に対しての出庫数量のコントロール
- ●盛込みラインで作られた惣菜を盛込みきる
- ●レシピの予定数量通りに製造されているかの予実管理

愛知環境賞 2021

中京センターでは、食品リサイク ルループ・弁当容器回収リサイク ルと、2つのリサイクルループを 運用しています。地域資源循環 を実現し、環境負荷低減に貢献 したと評価され、愛知環境賞 2021を受賞しました。

※愛知環境賞:愛知県が主催する資 源循環等で先進的な事例を表彰



授賞式にて、愛知県大村知事と清水副社長

食品リサイクルループ

どうしても排出してしまう食品循環資源(食品廃棄物)は地域ごとに、飼料化・堆肥化し、地域の農業生産者に利活用されています。現在、2工場におい て、農林水産省・環境省が認定する食品リサイクルループ(鶏の飼料化)を運用しています。中京センターから出る食品循環資源は、鶏の飼料化、卵とな り、マヨネーズで使用、東松山センターの食品循環資源は、外食事業の「から揚げの天才」で提供する液卵となり、原料として資源が戻っています。

■中京センター(食品工場) 食品リサイクルループ



■東松山センター(食品工場) 食品リサイクルループ



容器包装







プラスチックごみによる海洋汚染が世界的な問題となる中、ワタミの宅食事業では、プラスチック製容器包装類 の薄肉化や自社回収による再資源化の取り組みを強化してきました。特に、令和元年から2年間、環境省が推 進する「プラスチック等資源循環システム構築実証事業」に採択され、CO2削減効果の算定結果を公表しまし た。また、外食事業では、農林水産省による食品産業事業者の「プラスチック資源循環アクション宣言」に賛同 し、取り組みを進めています。

宅食事業での取り組み

循環型社会の構築

ワタミの宅食では、お弁当を製造しお届けする事業で、毎日25万人の食生活を支えSDGs 11「住み続けられるまちづくり」に貢献しています。長年繰り返 し洗浄してリユースするリターナブル容器を使用していました。2018年食品衛生面の向上、容器洗浄にかかるエネルギーや水使用量の削減、積載効率の 向上によるリバース物流時の環境負荷の低減など、コストや作業、環境負荷など総合的に検討し、バイオマスプラスチックを10%使用した軽量化(ワン ウェイ) 容器に切り替えました。毎日25 万個の弁当容器が廃棄されると、焼却時の CO2 発生・海洋プラスチック汚染など地球環境問題の原因になりま す。2019年から、お弁当配達時に使用済み容器を回収し、食品工場に集約後、地域のリサイクラーに搬出して、ケミカルリサイクルにより再び弁当容器の 原料となる「プラスチック製容器回収リサイクルループ」に取り組んできましたが、2021年3月、すべての配達エリアで実施できるようになりました。



「ワタミの宅食 ダイレクト(冷凍惣菜) |の容器バイオマス化

2021年5月から、まごころおかずな どの冷蔵弁当に引き続き、冷凍惣菜 の主力商品である「いつでも五菜」 「いつでも三菜」に、バイオマスプラス チックを10%使用した容器を導入し ました。まごころスタッフがお届けし ている場合は、容器を回収すること ができます。





意識調査

まごころスタッフ、お客様にご協力いただき、意識調査を実施しました。プラスチッ クが地球環境におよぼす影響(特に河川や海洋汚染への影響)に問題意識をお持 ちのお客様が多数いることがわかりました。

Q. あなたは使い捨てプラスチックによる環境 への影響は、重要な問題だと思いますか?



よくわからない

Q. 重要だと思う理由はなんですか?



外食事業での取り組み

日本酒ビンのリユースシステム

居酒屋で提供する日本酒のP B商品の容器には、ガラスびん を使用しています。ガラスは自 然界に存在する天然素材から つくられ、食品容器として安定 性が高くリユース適正にも優れ ていることから、北西酒造様と 協働で「びんのリユースシステ ム」を展開しています。この取り 組みは2009年から継続して 行っています。



※2019年実績本数

テイクアウト容器

コロナ禍でテイクアウトの需要が伸びています。お客様が 商品を持ち帰る際、安全で衛生的な容器包装は必要不 可欠です。従来から使用している容器包装はプラスチッ ク製なので、プラスチック素材の使用量をできるだけ削 減するために、代替素材への変更や、薄肉化などに取り 組んでいます。



丼用容器をプラスチック製から 紙製に変更(から揚げの天才)

紙製ストローの導入 (TGI フライデーズ)

容器包装リサイクル法への対応

ワタミでは、外食事業、宅食事業で使用する容器包装の使用量の把握と削減に努めて います。近年の傾向として、外食事業では、テイクアウト業態の拡大でプラスチック製 容器包装の使用量が増加しています。宅食事業では、2018年から再商品化義務が発 生するワンウェイプラスチック容器へ切り換えたことにより、プラスチック製容器包装 の使用量が増加しています。容器に使用する素材の検討、薄肉化、自社回収リサイクル システム等で、環境に優しい容器包装の使用を推進していきます。

■容器包装使用量の推移(単位:kg)

	2018年	2019年	2020年(見込み)
外食事業	3,354	5,252	8,924
紙	796	635	1,406
プラスチック	2,558	4,617	7,518
宅食事業	508,193	1,182,348	1,603,920
プラスチック	508,193	1,182,348	1,603,920
合計	511,547	1,187,600	1,612,844
紙	796	635	1,406
プラスチック	510,751	1,186,965	1,611,438

環境省の 実証事業成果

環境省のプラスチック戦略の一環である「プラスチック等リサイクルプロセス構築・省 CO2 化に係る技術実証事業」に宅食 事業の容器回収リサイクル事業が採択されました。2019年・2020年の2年間で仕組みを完成させ、成果を公表しました。

成果 プラスチックのリサイクル量

2019年度85tだったリ サイクル量は2020年度 に348tと約4倍になり、 2021年度は900tとなる 見込みです。 (容器回収率80%で試算し た見込み数値)





効果 環境負荷(CO2換算)の削減効果

年間6000万食(25万食/日)で試算

容器回収リサイクルを

運用した場合 バイオマスプラ10%の 軽量化容器を100%回収運用 9.793t-CO2/年 を排出

算定:(株)ウェイストボックス

852

TOPIX プラスチック資源循環促進法

2021年6月4日公布 「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」の制定により、プラス チック製品の製造段階における環境配慮設計指針の策定、再生素材やバイ オプラスチックなど代替素材の利用促進、プラスチック資源の回収・リサイク ルの効率化等による包括的な資源循環体制が強化され、サーキュラーエコ ノミーへの移行が加速することが想定されます。特に、小売業者や飲食店な どには、使い捨てのスプーンやストローなどプラスチック製品の提供の削減 が求められ、ワタミグループでは、法律の施行前に宅食事業の容器の自主回 収モデルを環境省の実証事業の中で構築しました。今後は、店舗で使用する プラスチック製品の使用削減や、店舗回収、お客様とのコミュニケーション でマイ容器、マイボトルの普及拡大などに取り組む必要があります。

プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律案

プラスチックのライフサイクル全般での3R+Renewableにより、 サーキュラーエコノミーへの移行 を加速

1 設計·製造段階

プラ製品の環境配慮設計に関する指針に即した環境配慮 製品を国が初めて認定し、消費者が選択できる社会へ

販売・提供段階

小売・サービス事業者などによる使い捨てプラの使用を 合理化し、消費者のライフスタイル変革を加速

排出・回収・リサイクル段階

あらゆるプラの効率的な回収・リサイクル促進

参照:環境白書令和3年版

自然共生社会の構築



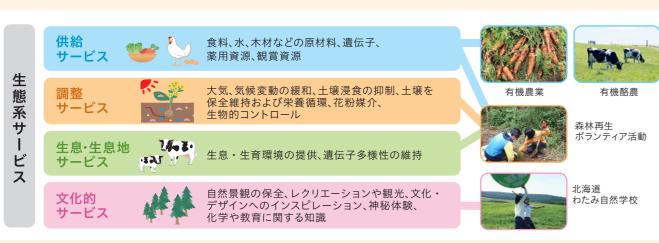




食糧や水など私たちが生活していく上で必要なものの多くは、「自然」の恩恵である生態系サービスによって支 えられています。現在、そして未来の子どもたちにわたりその恩恵をうけるためには、生態系サービスを生み出 す「自然」を守り、上手に利用する必要があります。ワタミグループでは、有機農業、森のボランティア活動を通じ て、生態系サービスを守る活動を推進しています。

生態系サービス

生態系サービスは、供給サービス、調整サービス、生息・生息地サービス、文化的サービスの4つの分類に分けられます。ワタミでは、有機農業、酪農、森 林再生のボランティア活動をつうじて、供給サービス、調整サービス、生息・生息地サービスに対し、生物多様性を守る取り組みに貢献しています。



※参照:環境省 生物多様性センター

生態系を守る取り組み 有機農業・酪農事業 (有)ワタミファーム Watami Farm



「安心して飲食を楽しんでいただきたい。」その思いがワタミで有機農業を 始めた理由です。創業当時の人気メニュー レモンサワーのレモンは輸入品 で、皮に防腐剤が使われていたため、よく洗ってから提供していました。 化学物質が人間に与える影響を考え、農薬や化学肥料を使用しない有機 農産物を安定的にお客様にお届けするために、2002年から自社で有機農 業に取り組んでいます。

毎年農産物を生産していると土の栄養が少なくなり、収穫量も減少します。 栄養豊富な土壌を維持するために、堆肥や緑肥を施用しています。緑肥は、 作物を畑で育て、土にそのまますきこむことで、肥料分や有機物として土壌 改良に役立てます。豊かな土壌を維持することは、生物多様性に関係しま す。ワタミファームは生物多様性を守りながら、安定的に有機農産物をお 客様にお届けします。

管理面積 624 ha (畑作 177ha 酪農 447ha) ●有機 | AS 認証面積 261ha ● | GAP 認証 8 農場 2021年3月末時点 CO2吸収効果 2.767 t-CO2 グループ内へ出荷 389 t 総出荷量2,768 t グループ外へ出荷 2,379 t 144,259kg きく芋 27,263kg 小松菜 6,599kg レタス 133,463kg 生姜 20,955kg 落花生 4,190kg 116,575kg 玉ねぎ 11,349kg IChIC< 4,005kg さつま芋 59,896kg ロメインレタス 9,466kg キャベツ 38,280kg 水菜 7,047kg

2021年4月に事業縮小に伴い、4つの農場・牧場を譲渡(79ha 縮小)

ワタミファームの農場

山武農場 面積 13.4ha

2020年度収量ランキング NO.1 人参 (100t) NO.2 大根 (47t) NO.3 きく芋 (9t)

.....<mark>/</mark>......

山武農場は、ワタミファーム1号目の農場 です。本社からもっとも近く利便性もあり、 来場者がもっとも多いのが特徴です。全農 場のモデル農場であり、外食で販売してい るキャロット&オレンジ(人参のジュース) や、ゆで落花生等の加工品販売も実施し ています。また、従業員の研修農場として も機能しています。



2020年度自然学校の生徒たちに 農場スタッフが有機野菜について熱弁



コンニャクや桑など群馬県 で産地化されている品目と 親和性を持っている農場 です。注目食材であるきく 芋を大規模生産する予定 で、将来的には加工までで きるように検討中です。



きく芋畑

東御農場 面積 6ha

2020年度収量ランキング NO.2



玉レタス (130t) ロメインレタス (3t) きく芋 (0.9t) レタス専用農場と言っても過言ではない農場で す。山の斜面にかけて農場が分散しているので、 その標高差を生かして夏場のレタス供給拠点と して機能拡充しています。また、郁文館夢学園の 農場実習受け入れで、学生の食育にも協力して



レタス農場

丹波農場 面積 3.8ha

2020年度収量ランキング

NO.2 むき玉ねぎ (322t) 人参 (16t) 玉ねぎ (11t)

農場以外に、むき玉ねぎの加工場がある唯一の 農場。むき玉ねぎは、宅食のお弁当の原材料とし て使用されています。また、黒にんにくの出荷も しています。



大阪の中学生の農場体験受け入れ

佐原農場 面積 5ha

2020年度収量ランキング NO.1





さつま芋の大産地に位置するため、メイン生産 物はさつま芋です。佐原農場で採れたさつま芋 は、外食店舗や宅食事業で加工品として使用さ れています。将来的には、外販を含め、スイーツ を開発予定です。





自然からの恵み 再生可能エネルギーの推進



太陽や風などの自然の恵みを、エネルギーとして活用する再生可能エネルギーも自然の恩恵を受けていま す。ワタミは、事業活動で消費するすべての電力を100%再生可能エネルギーで調達することを目標に掲 げる企業が参加する「RE100」に加盟し、2040年までの達成を目標としています。

ワタミエナジー(株)では、再エネ電力の普及を使命とし、再エネ電力の開発、小売電気事業や地域電力会 社の立ち上げ支援に取り組んできました。地域電力支援では、2016年の「うすきエネルギー」(大分県臼杵 市)の立上げに始まり、電力事業を通じて、資源エネルギーや経済が地域で循環する「持続可能な循環型 社会づくり」を推進しています。



26

東松山センターのルーフソーラー

都市近郊の手入れのできていない人工林の森林再生活動を行っています。その森の生物の観察や保全活動を通して、 「生態系からの恵み」を学び、生物多様性保全を行っています。

●2006年から千葉県山武市で、荒廃したサンブスギの人工林の再生 と、生態系保全活動を行っています。できるだけ多くのワタミグループ 社員と家族に参加してもらえるように、毎年植樹祭を開催しています。

●2019年から愛知県瀬戸市の海上(かいしょ)の森で、森林保全活 動と生物多様性活動を、ワタミの社員と県内の企業と協働で行って います。間伐した明るい森と手入れできていない暗い森では、植生 が変わることがわかりました。



除伐した森の植生調査

持続可能な開発のための教育

ESD (Education for Sustainable Development)

ESD (Education for Sustainable Development):持続可能な開発のための教育 ESDはSDGsの目標を達成して、持続可能な社会を創るための人材を育てる教育です。 ワタミは現在のことだけではなく未来のことを考え、自然や農場での体験学習を通して、 子どもたちに「人や自然、いきものを愛し、命を大切にする心」を育んでいます。

ESD は SDGs17 の全ての目標実現の鍵

エネルギー問題

ESDとはSDGsを実行する人材育成

ワタミでは、環境・社会・経済の調和のとれた、持続可能な未来を創る「ひとづく り」を行っています。世界の人々や、地球上の生き物、そしてこれから先の未来の ことも考えて、みんなが幸せに暮らしていける地球にしていくために、私たち一 人ひとりができることを考え、行動するための ESD です。

大量生産 大量消費

貧困問題 経済 所得格差 人づくり

廃棄物の増加 生物多様性の損失

北海道わたみ自然学校

未来を生きる子どもたちに、自然を愛し大切にす る心と、夢を叶える力を育てるために、ワタミでは 毎年夏休みに北海道で「自然学校」を開催していま す。親元を離れて参加する子どもたちの先生は、ワ タミグループから応募して選ばれた社員です。「子 どもたちの夢の種が大きく花開くのを見守ること」 そして、「子どもたちが与えられた命のかぎり生き ること」を願って毎年開催しています。

※新型コロナウイルス感染防止のため、2020年は北海道で の開催を見送り、千葉県山武市で1日だけの開催でした。

この体験型学習は、子どもたちが北海道 の自然とふれあいながら、共に参加する 仲間や大人たちとの交流を通じて、「夢を 見つけることの大切さ」「一人ひとりの可 能性の大切さ」を実感することで、未来を 担う子どもたちが持続可能な社会を築く 力を育むことを目指しています。また、ユ ネスコが推進する ESD にも合致し、社会 的意義も大きいと考えています。



、北海道わたみ自然学校アーカイブ 1999 年からの記録 /

子どもたちに「自分はどう生きるのか、この世に生まれた自分の役割は何なのか、そして人に対して何をすることができるのか」を考えるきっかけ を提供できればという願いを込めて、1999年より、小学校4~6年生を対象にこの自然学校を開催してます。「教育とは"意思"を持つための"環 境"と"偶然"を提供することだと思う。北海道では期間が短いため、"環境"は提供できない。しかし、"偶然" = きっかけは、間違いなく提供できると 思う。」と渡邉校長(ワタミグループ創業者)は言います。子どもたちが自分自身の"意思"をもつための"偶然"を提供するため開催いたしています。















子どもたちが命について考え、自然とふれあい、友達と の交流を通して、夢を持って生きることの大切さを感じ てほしいとの思いから、自然学校を開催しています。そ 毎年多数の応募があり、子どもたちと自然の中での活 動がとても貴重な経験になっています。ワタミの環境教 育・ESDの象徴的な取り組みとして、 自然学校はこれからも継続していきます

> 居酒屋営業本部長 亀本 伸彦 (自然学校三代目教頭)

千葉県山武市で自然学校 森林活動と農業体験

毎年夏休みに開催している「北海道わたみ自然学校」が、新型コロナ ウイルスの影響で中止になってしまいました。準備していた社員と参 加予定だった子どもたちの希望で、千葉県山武市の「日向の森」で森 林活動、ワタミファーム山武農場で収穫体験やウッドクラフトを体験 しました。SDG s 15・13 に関わることについても学びました。

ナウイルスの影響で中止になりました。たくさんの子どもたちの貴重な夏 休みの思い出が奪われるという危機の中、自然学校渡邉校長(ワタミグ ループ会長)から楽しみにしていた子どもたちの思いを守り、 自然学校を継続する事の大切さを教えられ、秋にワタミの 農場がある千葉県山武市にて森と農場を体験できる

2020年は約20年近く継続してきた北海道わたみ自然学校が、新型コロ

プログラムを組みました。

人材開発本部 高城 睦弘



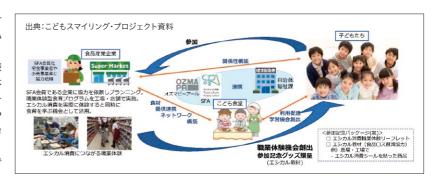




こどもスマイリング・プロジェクト(丹波農場:兵庫県) 消費者庁「地方消費者行政に関する先進的モデル事業」

ワタミは、食品ロスの無い社会構築を目的とした、一 般社団法人サスティナブルフードチェーン協会 SFA に加盟しています。

SFAの開催する子どもたちがエシカル消費※を体験 学習する機会として、ワタミは「丹波農場で収穫体 験」を提供しました。大阪市の農地の無い地域の子 どもたちが、有機栽培の畑で土の中からさつま芋や 里芋を掘り出し、収穫したてのレタスを食べて「生命 をいただいて生きていること」を体験学習しました。 (※生産者や環境に配慮して生産したものや、地産地消など地元で











+の中から芋とミミズが出現

堆肥場は少し臭かった

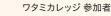
採れたてのレタスをいただきます

その他にも、「ワタミチャレンジアワード」や「ワタミカレッジ」等の夢を 応援する仕組みがあります。

ワタミチャレンジアワード 既存の事業に捉われない夢のコンテスト **フタミカレッジ** 2014年から開かれている、社員のビジネスセンス

の向上、考える力を目的とした企業内大学





夢達成への支援

社員の夢を応援する仕組みとして、1995年から独立支援を目的に DFC (ダイレクトフランチャイズ)制度」を導入しています。外食での独 立を希望する社員は、この制度を活用することで、少ない資金での独立 が可能となり、2020年度末現在64名のオーナーが101店舗運営し ています。





オーガニックベビーフード事業を 2019年度ワタミチャレンジアワート 提案した梅野 泰輔 **最終**選老会

社会貢献活動を通した従業員の成長 [詳細はP31/32]

ワタミでは、社会貢献活動やボランティアとは「何かをしてあげることではなく、何かをさせていただくことにより学び、感動し、結果として成長させて いただくこと」と考え、従業員一人ひとりが、自発的・継続的に社会貢献活動を行うことを 1995 年から推奨しています。年に1 度は全従業員がボラン ティアに参加することを合言葉に、地域でのバザーや障がい者施設の子どもたちを招いたお食事会の開催を行っています。

ダイバーシティ

出産・育児・介護への支援

従業員が出産・育児・介護などに携わ りながら職場で継続的に能力が発揮 できるよう、出産・育児・介護に関する 支援・休職など各種制度、時間短縮勤 務や深夜就労・残業の制限などを導入 しています。

育児休暇 男性 女性 24.1 100 全国平均 7.48 83.0 全国平均音児休暇率の出曲・原生労働省

「令和元年度 雇用均等基本調査」

障がい者雇用

障がいの有無を超えて、ともに働く仲間として学び合い、ともに成長す ることを目標に、障がい者の雇用に取り組んでいます。現在、外食店舗 での清掃や仕込み、宅食事業所での事務補助、食品工場での製造・荷 受け・事務補助、農場で農作業などに従事しています。

2020年度の障がい者の法定雇用率は2.66%でした(2021年6月1日時点)。

コロナ過で休業中の従業員の 健康診断受診率向上 多様な働き方を推進

全従業員に受診が義務付けられている健康診断 受診では、受診率100%を目標に掲げています。 2020年度は、受診率100%を達成しました。今後 も健康診断受診率100%を継続していくととも に、健康診断の結果、再検査が必要な従業員には 受診を促し、また、健康に留意する必要がある従 業員には運動プログラムや食事のあり方を提案す るなど、健康の維持・管理の支援をしていきます。

2020年は、新型コロナウイルス感染症拡大により、外食店 舗が休業する事態となりました。そうした中、休業中の従業 員の雇用の維持と多様な働き方を推進し、別会社・事業で の研修をするために、2020年5月「ワタミエージェント株式 会社」を設立しました。外食店舗に勤務する従業員(パート アルバイトを含む)に派遣先(働く場)を提供しています。

interview



Watami Agent

(株)ロピアで働くワタミ従業員

interview

ワタミも創立37年を迎え、社員の平均年齢も40 歳を超えました。

私が入社をした2004年は平均年齢が25歳く らいと記憶しています。福利厚生の担当となり、数 年経ちますが、最近は健康診断の結果から大き

な病気が見つかることも以前より増えています。ワタミは「心とから だの健康づくり」を合言葉としていますし、高齢者向けのお弁当事 業、有機野菜の栽培など"からだ"に良いことを事業展開しています。 働く私達社員がまず健康であることが、お客様への一番のアピール になると思いますので、福利厚生担当として、今後は病気にならない "からだ"づくり、食事や運動、生活習慣を変えることへ取り組みを強 化していきたいと思っています。

人材閏発太部

中澤 晴子

2021年4月より、新人事制度「成長戦略 2020]をスタートさせました。今回の変更 は、入社~定年退職までの一連の制度を抜 本的に見直し、一人ひとりの夢目標の達成 に伴走する設計としており、「夢を持ち、夢を 追い、夢を叶える努力をする」従業員にとっ



て、最高の会社にしたいと考えています。働き方改革も並行して 実施し、コロナ禍の今だからこそ、あるべき姿を実現していきま す。また、休業店舗も多く発生したため、「特別研修」として出向・ 派遣の体制を構築しました。スーパーや介護、農業、畜産など、 幅広い業種で研修を実施することで、グループ内だけでは経験 することができない研修を受けることが出来たと思います。

グループ共通で行っている社員との対話

従業員の幸せ日本一を目指して

ループになろう |を合言葉に、従業員の幸せ日本一の職場づくりに努めています。

ワタミグループは、理念を共有し、従業員一人ひとりがそれぞれの夢や目標を実現していく組織を目指すこと

が、会社の成長につながると考えています。グループ共通で「地球上で一番たくさんのありがとうを集めるグ

社内4大会議

2019年から経営層と人材開発本部、事業教育担当者が参加する、社内 4大会議である「従業員の幸せ実現会議」を月に1度開催しています。 会議では、幸せの定義を「従業員の幸せ7項目」と定めました。この「幸 せ7項目」を従業員との対話(従業員アンケート)と連動させ、課題に対 して PDCA を回し、従業員の幸せ日本一を目指します。 ※社内4大会議:●経営戦略会議 ●従業員の幸せ実現会議 ●ブランド向上会議 ●SDGs会議



全体会議:事業のビジョンと戦略を

幹部研修会

一人ひとりの従業員に寄り添い、現状を把握することを目的に従業員 アンケートやカウンセリングを定期的に行っています。カウンセリング は所属する上長から、アンケートは無記名で答えます。それぞれの結果 は教育部で共有され、各事業部と改善策の立案・検証が行われます。

お金に困らない

家族・友人と良き

人間関係をつくる

仕事のスキルを

身に付ける

従業員との対話

夢を持ち、夢を追い、夢を叶える

従業員の

幸せ

7項目

ありがとうを集める 仕事を持つ

健康

人格を磨く

キャリア アップ

キャリア形成を

支援する

ワタミチャレンジ

ワタミカレッジ

● FA 制度

DFC制度

アワード



新制度の導入

従業員の幸せ日本一を目指す上で、新たな人事制度(成長戦略 2020)を導入しました。 ワタミでは、農場などの1次産業から外食事業や宅食事業の3次産業まで幅広い事業があり、各事 業により就業規定や評価方法等が異なっていました。新しい制度は、会社と一人ひとりの現状と未 来を見据えた一貫の制度です。

また、新たな人事システム(タレントマネジメントシステム)も導入しました。一人ひとりのキャリアデ ザインを描く上で、ジョブローテションや FA 制度*に適用されます。必要となるスキルを教育する ツールとしては、glow(eラーニング)を使用し、一人ひとりのスキルの向上を支援しています。

※社員が自らの意思で新しい職場・職務への異動を申請することができる制度



創業記念祭:創業の原点を振り返るとともに、 従業員を賞賛する場として毎年5月に開催



















1995年から本格的に始まった社会貢献活動。「全員が年に1回はボランティアに参加する」を合言葉に、社員が 自主的に参加しやすいように案内をしています。また、各事業拠点が所在する地域との関わりを深めるために、地 域イベントにも参加しています。グループスローガンである「地球上で一番たくさんの"ありがとう"を集めるグ ループになろう」を実現するために、地域や社会の発展に貢献する活動を推進しています。

地域・お客さまとともに

弁当宅配事業をつうじた 地域の高齢者の見守り



「ワタミの宅食」では、まごころスタッフが毎日25万食のお弁当・お惣菜を 手渡しでご自宅にお届けする事業の特性を生かし、221カ所の地域・行 政と連携し、「地域を守る」取り組みに協力しています。これは、まごころス タッフがお届けの際に、地域・行政との協定に基づき、異変に気づいた場 合、市区町村の指定の連絡先に通報するというもので、これにより、ご高 齢の方が安心して住み続けられるまちづくりに貢献しています。

九州豪雨被災地に 10 万食無料支援







2020年7月8日「ワタミの宅食」にて、九州豪雨の被害に遭われお困り の方のお食事面を少しでも支援し、社会インフラ事業として可能な限り 貢献するべく、最大10万食の枠で、お弁当・お惣菜を無料でお届けする 緊急支援策を39の地域で実施いたしました。

[EARTH HOUR 2021] 外食チェーン合同参画









2021年3月27日、公益財団法人世界自然保護基金ジャパン(WWF ジャパン)が主催する「EARTH HOUR 2021」に、18 の外食チェーンと 合同参画しました。「ミライザカ」「三代目 鳥メロ」「TGIフライデーズ」の 一部店舗で、看板などのライトダウンを実施し、お客様とともに地球環 境問題について考える機会を持ちました。店舗では食べ残しがあるお客

様には、お持ち帰りパックのご利用をお 声掛けし食品ロスを削減したり、エアコ ンフィルターの清掃で省エネ活動を行 いました。従業員は1日マイボトルで過 ごし、海洋プラスチック汚染問題を考え る機会としました。





大学・企業とのコラボレーション

東京農業大学と 包括連携協定を締結





















ワタミグループと東京農業大学は、日本の農業の課題解決に長期的に 取り組む包括連携協定を締結しました。

- (1) 有機農業テーマパーク「ワタミオーガニックランド」事業に関する事項
- (2) 農業及び関連産業の活性化に向けた事項
- (3) 人材育成に関する事項

(4) その他両者の協議により必要と認める事項 この連携により、様々な日本の農業の課題

解決のきっかけとし、各地の農業の活性 化、持続可能な循環型社会の構築を進め、 地域の活性化に寄与していきます。



左から東京農業大学高野学長と 会長の渡邉

「グリーン・クリーン・









13 ALBERT 14 ARBESTS 15 ROBERTS 16 RECORD 17 ORIGINAL STREET

「グリーン・クリーン・プロジェクト」は、5月4日の「みどりの日」に、"緑 色"をイメージカラーに持つ企業 5 社が、今ある自然を未来へ繋いでい くため、自然に感謝する機会を創出し、環境について考える"グリーンの 輪"を広げていくことを目的にしたプロジェクトです。

このプロジェクトの輪を広めていくことを目指して、2021年4月20日

~5月4日に、Twitterで企業や 消費者が環境に配慮した取り組み 投稿する「#私のグリーン活動」 キャンペーンを実施しました。



「いわてグルージャ盛岡」と業務提携 「陸前高田ワタミオーガニックランド」を拠点に地域の魅力を発信

2021年4月29日、株式会社いわてアスリートクラブと業務提携契約を締結しました。いわて アスリートクラブが運営するサッカークラブ「いわてグルージャ盛岡」は、「陸前高田ワタミ オーガニックランド」を拠点にして、地域の魅力を発信する活動を行っています。

主な活動としては、「陸前高田ワタミオーガニックランド」でのサッカー教室や地域の方との交 流、情報発信を行い、地域の活性化に貢献してます。4月29日には開業を記念して、「いわて グルージャ盛岡」のキャラクターである「キヅール」と一緒に植樹を実施しました。



左から、いわてグルージャ盛岡の菊池GM、いわてアスリートクラブ の坂本社長、ワタミオーガニックランドの小出社長

新型コロナウイルス(COVID-19)の対応







ワタミエナジー 電気料金支払いを猶予する特別処置を拡大

新型コロナウイルスの影響による休業・失業等で、公共料金の支 払いが困難なお客様に、電気料金の支払い猶予の特別措置を 2020年3月と7月に実施しました。

ワタミの宅食 交通事故防止運動の協力(東京都大田区)

2020年3月~4月に、新型コロナウイルスによる臨時休校措置で、 自宅待機を余儀なくされた子どもたちに向け、大田蒲田営業所、大 田羽田営業所のまごころスタッフがお弁当と一緒に交通事故防止

のためのチラシ配布や、声 掛け運動に協力しました。 蒲田警察署より感謝状を いただきました。

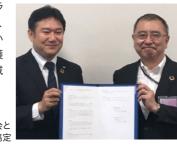


蒲田警察署感謝状贈呈式

豊島区教育委員会と弁当提供の連携協定

宅食事業では、東京都豊島区教育委員会と、学童クラブへ弁当提 供の連携協定を、2021年6月24日に締結しました。7月19日~ 9月1日の夏休み期間中、豊島区が運営する22カ所の学童クラ ブの希望者に「ワタミの宅食」の「まごころ手鞠とごはんのセット」

を提供しました。学童クラ ブ利用者のご家庭では、 両親がフルタイムで働い ているケースが多く、保護 者の弁当作りの負担軽減 を目的としたものです。



豊島区教育委員会と 弁当提供の連携協定

特急レーン・配膳ロボットで感染防止対策

新型コロナウイルスの影響により、外食産業は厳しい状況が続い ています。そのため、外食ニーズの変化に応える新業態「焼肉の和 民! 「かみむら牧場!などの焼肉業態への転換を積極的に進めてい ます。

コロナ禍を見据えた非接触型飲食店への対応策として、特急レー ンや配膳ロボットの導入により、お客様との接触を80%削減(居 酒屋比較)しました。これらにより、ホール業務の効率化と同時に 新型コロナウイルス感染拡大防止策を徹底していきます。

また、最新の排煙・空調設備の導入により、3分に1回、店内の空 気の完全入れ替えを行っており、安全・安心な環境でお食事を楽 しんでいただくことができます。



特急レーン



配膳ロボット

ワタミの宅食 医療従事者を食で支援

冷凍惣菜「ワタミの宅食ダイレク ト」を、緊急事態宣言が出された地 域の最前線で治療に尽力されてい る医療従事者を対象に、1万食を 無料でお届けいたしました。新型コ ロナウイルスへの対応で医療従事 者の負担が増加する中、バランスの とれた食事を届けてほしいという 医療機関からの要望に応えたもの



休業中の従業員に働く場の提供

スーパーマーケットを運営する株式会社ロピアと2020年5月4 日、出向基本契約を締結しました。緊急事態宣言に伴い休業中の ワタミの従業員がロピアの展開する食品スーパーマーケットに出 向する新たな人事交流の取り組みを開始しました。

緊急事態宣言を受け、4月13日からワタミの国内外食店舗約 400 店で休業、そのため自宅で過ごしている従業員が多くいまし た。一方、首都圏1都3県に48店舗を展開するロピアは、食品や 日用品の需要拡大により客数が増加し、従業員の雇用確保が喫 緊の課題となっていました。

業界の垣根を越えて人事面での 交流を図ることで、休職中の従業 員に働く場所を確保するととも に、雇用を増やしたいというロピ アのニーズに応えるかたちで、契 約を締結しました。



生産者・お取引業者 応援企画

提供する食材・食品の生産に関わるすべての関係者と共にこのコ ロナ禍を乗り越えるため、外食店舗では、生産者・お取引業者応援 企画を行いました。

「焼肉の和民」で"A5"の最高級ランク和牛食べ放題

お客様へ高品質なお肉をより気軽にお楽しみいただくべく、薩摩 牛・仙台牛の A5 和牛を味わえる『極上!A5 和牛コース』を提供し

「ミライザカ」「三代目 鳥メロ」で"とっておきの贅沢キャンペーン" 黒毛和牛を生産される畜産業者、本鮪を扱う水産メーカーも売 り上げが激減し、多くの在庫を抱えています。消費の拡大をはか り、生産者を応援するために、黒毛和牛や本マグロを使用したメ ニューを、特別価格で販売しました。



「ミライザカ」「三代目 鳥メロ」の 本鮪軍艦寿司と、黒毛和牛炙り焼



ワタミグループが支援する社会貢献団体

ワタミグループは、「環境とともに・社会とともに・人とともに」をブランドテーマに掲げ、事業活動を超えた領域で もたくさんの"ありがとう"を集めるべく、社会貢献団体への支援を積極的に行っています。3つの社会貢献団体 へは設立当初より、外食店舗や宅食営業所に募金箱を設置、イベントや森林保全活動に社員がボランティアス タッフとして参加するなど、様々な形で継続的に関わっています。



1996年度より、「未来の子どもたちのために」をテーマに「ワタミふれあいカード(クレジットカード)」を発行しており、ワタミ グループ国内外食店舗での利用総額の1%相当を、社会貢献活動を行う団体に寄付しております。 2020年度は、カードご利用総額67,233,328円の1%相当となる672,333円を3つの公益財団法人「School Aid Iapan」、 「Save Earth Foundation」、「みんなの夢をかなえる会」に寄付いたしました。

公益財団法人 School Aid Japan (SAJ)









2001年NPO法人として設立。「一人でも多くの子どもたちに、人間性の向上のための 教育機会と教育環境を提供する」という活動方針のもと、カンボジア、バングラデシュな ど開発途上国の子どもたちへの支援を行っています。寄附金・会費は「全額、現地の支援 費に使う」ことを原則とし、その使途を明確にしており、「現地の現実が変わったことを 確認できる支援」を行っています。



カンボジア孤児院「夢追う子どもたちの家

主な事業活動 カンボジア

- 学校建設事業 ●就学支援事業
- ●朝給食提供
- ●お米支援
- 孤児院運営事業

バングラデシュ

学校運営事業

学校建設

318校

※2021年4月現在

カンボジア 287 校

ネパール8校

バングラデシュ 23校

カンボジアではコロナ禍で職を失った貧困世帯が急増 しました。SAIは従来より貧困世帯向けにお米や子ども の制服などを配布していましたが、その配布対象世帯を 前年比約2倍の1,800世帯としました。SAJは現地から

の要望に応じて臨機応変に支援をしております。



公益財団法人 Save Earth Foundation













2015年に設立。「美しい地球を子どもたちに残すため、限りある自然資源を有効利用 し、持続可能な循環型社会づくりに貢献すること」を目的に掲げ、「資源循環事業」と「森 林再生事業」に取り組んでいます。

資源循環事業

食品の製造から流通・消費にいたる過程で発生する食品廃棄物を、飼料や肥料などに 再資源化して食品生産に活用する「食品リサイクルループ」の構築に取り組んでいます。 また、排出事業者が、廃棄物を適正に管理するための手法とシステムを提供しています。



千葉県山武市で行われた植樹際

33

森林の再生保全活動、間伐材などの森林資源の 利活用と、森林環境教育に取り組んでいます。

植樹 4,593 本

■ TOPIX 第8回「食品産業もったいない大賞」 農林水産省食料産業局長賞を受賞

SEFが事務局となって推進している、外食企業5社協働での食品リサイクルループ構築による地域循環共生圏の構築及 び再生利用等実施率向上への貢献について、第8回「食品産業もったいない大賞」を受賞しました。複数の外食企業が 手を組み、食品循環資源を飼料化するリサイクルループは、日本初の実績となりました。この実績を基に、次は群馬県東 部を拠点とした食品リサイクルループの構築による循環型社会の構築を目指します。



「食品産業もったいない大賞」の賞状

【】TOPIX 愛知県瀬戸市「海上(かいしょ)の森」と森林保全協定を締結

SEFでは、特別賛助会員企業のワタミグループと愛知県との3者で、愛知県の県有林「あいち海上の森」における 森林保全協定を2020年4月1日付けで締結し、SEFとして5地域目となる愛知県瀬戸市での活動を開始しまし た。2021年4月現在、4回目の活動を行っており、述べ97名の方にボランティアとしてご参加いただいていま す。今後も、自然環境や森林等の状況に応じて、生物多様性保全を進めると同時に、次世代に向けた人材育成を 図り、持続可能な社会に貢献していきます。



海上の森での森林保全活動ボランティア

第三者意見

ワタミのSDGs and Beyondに大きな期待!

今回『ワタミ環境レポート2021』を読むまで、ワタミが環境 問題に、いや持続可能な社会づくりにこれほど真摯に取り組 んでいるとは知らなかった。日本の21世紀環境立国戦略の 3つの柱、脱炭素社会、循環型社会、自然共生社会が求める ところを独自の路線で追及している姿には感銘さえ覚える。 ワタミは、サプライチェーントで生じるあらゆる問題の解決 に果敢に挑戦しているが、その根底には冷静な自己分析があ る。サプライチェーンを通じた脱炭素化ではスコープに応じ て定量化し、解決すべき問題点を明らかにしている。また、エ ネルギー、廃棄物、排水などの環境負荷についてもマテリア ルバランスをチェックして環境負荷低減の努力を重ねてい る。宅食事業でリターナブル容器からワンウエイ容器に変え ても実は環境性能の向上することが説得的に示せるのもこ うした分析があればこそだ。

かつて立てた目標と現在の達成状況を比較して「通信簿」を 作り、公開している点も高く評価できる。広く社会に対して説 明責任を果たしているからだ。こうした社会への説明責任の 姿勢は、既に2010年に外食企業としては唯一のエコ・ファ

一スト企業として認定されたことに強く反映されている。 ワタミのビジネスモデルで目指されているのは、環境と経済 のウインウイン、あるいは私益と公益の両立と言って良い。 昨今の「自分だけが儲かれば良い」というありがちな経営ス タイルとは正反対で、公益的性格を備えた私的企業という近 未来を先取りしたモデルが目指されている。会社が社員を心 から大切にしているからこそ、社員一人ひとりのコミットメン トも大きくなり、結局はそれが社会貢献に繋がる。私益と公 益の結合の要がここにある。

2021年、陸前高田市のオーガニックランドがオープンした。 完成まで 20 年かかるという。なんと胸をときめかせることで はないか。SDGs and Beyond つまり SDGs のまたその先 が見えて来そうだ!

> 中部大学副学長 経営情報学部長,教授 細田 衛士氏



公益財団法人 みんなの夢をかなえる会

掘・育成・支援を行っています。

●みんなの夢AWARD



社会起業家が夢を語るビジネスコンテスト。 北海道~沖縄まで全国の高校生が参加





●高校生みんなの夢AWARD

するソーシャルビジネスモデルコンテス

ト。高校生が自ら解決したい社会問題を

特定し、それを解決するビジネスモデル

を発表。未来を担う高校生の自己効力感







2010年にNPO法人として設立。「夢溢れ『ありがとう』が飛び交う社会の実現」を目的に 掲げ、様々な社会問題を解決しながら、同時に雇用と納税を生み出す"社会起業家"の発



みんなの夢AWARD

高校生みんなの 夢AWARD

● TOPIX ソーシャルビジネス学習プログラム

素敵な夢に触れ聴衆も自らの夢を考えます。

経営者が経営の原理原則と要諦を学ぶ塾。

社会問題を解決する CSV 経営者を育成。

●渡美塾(渡邉美樹実践経営塾)



高校生が社会における自らの役割(=夢)を見つけることを目的としたオン ラインの学習プログラム。4章構成・動画13本(約300分)で、様々な社会 問題、SDGs、社会起業家について学ぶ機会を提供し、ビジネスの基本や 仕組みを解説。高校生の自宅学習や高校教員の授業利用など、誰でもいつ でも視聴できるように無料で公開中。

を育みます。

● TOPIX みんなの夢AWARD 11年連続開催

誰かの幸せと重なるような夢のビジネスプランを公募。選考を通過したファイナリストによる素敵 なプレゼンテーションに触れ、聴衆も自らの夢を考える。グランプリ受賞者には、協賛企業とのマッ チングや、共催団体より最大2,000万円の出資交渉権など、社会問題の解決と事業の成功を支援。



渡美熟(渡邉美樹宝践経堂熟)

ご意見・ご感想をお聞かせください。

「ワタミ環境レポート2021」をご覧いただき、誠にありがとうございました。 より良いレポートを制作していくために、皆様のご意見・ご感想をお聞かせください。



